

令和元年度

学力調査研究委員会
研究報告書

令和2年(2020年)2月

練馬区教育委員会
練馬区学力調査研究委員会

はじめに

平成 29 年 3 月 31 日に新学習指導要領が告示され、いよいよ令和 2 年 4 月から小学校において全面実施となります。今回の改訂では、知識および技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成 20 年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、これからの時代に求められる資質・能力を育成することが示されています。

また、各教科等においては、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱を軸とした指導を進める中で、知・徳・体にわたる「生きる力」を児童・生徒に育むために、「何のために学ぶのか」という学習の意義を教員間で共有しながら授業改善や指導法の工夫を図っていくことが求められています。

今回、練馬区教育委員会では、文部科学省による平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査および令和元年度練馬区立学校学力調査の結果を基に、練馬区立小・中学校の児童・生徒に、身に付けるべき学力がどの程度定着しているかを把握することにより、学校における教育活動および教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために本報告書を作成いたしました。

本報告書には、調査分析の結果から授業改善の方向性、具体的な指導の工夫や家庭との連携などの、学力向上に向けた手だてが示されています。本報告書を有効に活用し、自校の課題に照らして授業改善を進め、新学習指導要領の主旨に沿った、より質の高い指導が展開されることを期待しています。

令和 2 年（2020 年） 2 月

練馬区教育委員会

目 次

I 学力調査の概要1

- 全国学力・学習状況調査 1
- 練馬区立学校学力調査 1
- 設問別集計結果・解答傾向の見方 2

II 学力調査の結果4

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果概要

1 国語6	3 英語 14
(1) 小学校国語	(1) 中学校英語
1 結果概要6	1 結果概要 14
2 課題と授業改善の手だて6	2 課題と授業改善の手だて 14
3 設問別集計結果一覧表7	3 設問別集計結果一覧表 15
4 課題のある設問7	4 課題のある設問 15
(2) 中学校国語	
1 結果概要8	
2 課題と授業改善の手だて8	
3 設問別集計結果一覧表9	
4 課題のある設問9	
2 算数・数学10	4 社会 16
(1) 小学校算数	(1) 中学校社会
1 結果概要10	1 結果概要 16
2 課題と授業改善の手だて10	2 課題と授業改善の手だて 16
3 設問別集計結果一覧表11	3 設問別集計結果一覧表 17
4 課題のある設問11	4 課題のある設問 17
(2) 中学校数学	
1 結果概要12	
2 課題と授業改善の手だて12	
3 設問別集計結果一覧表13	
4 課題のある設問13	
	5 理科 18
	(1) 中学校理科
	1 結果概要 18
	2 課題と授業改善の手だて 18
	3 設問別集計結果一覧表 19
	4 課題のある設問 19

III 質問紙調査の結果20

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果概要

- 1 教科に関する意識22
- 2 生活の状況 24
- 3 学習の状況26
- 4 自分自身についての意識28

I 学力調査の概要

平成31年4月、文部科学省により、小学校第6学年および中学校第3学年の全児童・生徒を対象に、「全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学、英語）」が実施された。また、6月には、練馬区教育委員会により、練馬区立中学校第3学年および小中一貫教育校第9学年の全生徒を対象に「練馬区立学校学力調査」（社会、理科）を実施した。本報告書では、両調査の結果を併せて報告する。

● 全国学力・学習状況調査

（1）調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

（2）調査内容

教科に関する調査

- ・国語、算数・数学、英語（中学校）
次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。

（イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容。

※英語においては、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」に関する問題を出題。ただし、「話すこと」調査に係る特例的な措置に伴い、調査結果としては「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。

質問紙調査

- ・児童・生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）
- ・学校に対する調査（学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等）
※本報告書では、児童・生徒に対する調査を取り上げている。

（3）調査対象

小学校第6学年および中学校第3学年の全児童・生徒

（4）調査対象児童・生徒数

練馬区立学校児童	国語	5,300人	算数	5,300人		
練馬区立学校生徒	国語	4,102人	数学	4,103人	英語	4,103人

（5）調査実施日

平成31年4月18日（木）

● 練馬区立学校学力調査

（1）調査の目的

学習指導要領に示された教科の目標および内容が生徒にどの程度身に付いているかの実態を把握し、授業の改善を図る。

（2）調査内容

社会、理科

（3）調査対象

練馬区立中学校第3学年および練馬区立小中一貫教育校第9学年の全生徒

（4）調査対象生徒数

社会	4,137人	理科	4,140人
----	--------	----	--------

（5）調査実施日

令和元年6月5日（水）

設問別集計結果・解答傾向の見方

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の公立校の集計結果および練馬区立学校学力調査の集計結果を基に、両調査の表形式に準じて一部を抜粋、再編成している。
両調査の集計結果の用語に準じているため、表記は必ずしも一致しない。

【用語解説】

- 「正答率」 調査対象児童・生徒のうち、設問に対して正答した児童・生徒の割合
- 「平均正答率」 児童・生徒の正答数の平均(平均正答数)を百分率で表示したもの

Ⅱ 学力調査の結果 (p.4~19)

●全国学力・学習状況調査(国語、算数・数学、英語)

「平均正答率(全体)」

- ・「1 結果概要 ① 領域・観点別正答率表」の分類・区分の「全体」の平均正答率は、国語、算数・数学、英語のそれぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)である。
- ・学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率である。

「解答類型」

「4 課題のある設問」の解答類型は、解答を正答(複数の解答類型が正答となる設問もある)、予想される誤答、それ以外の誤答、無解答に分類している。

教科全体の傾向や課題を概観

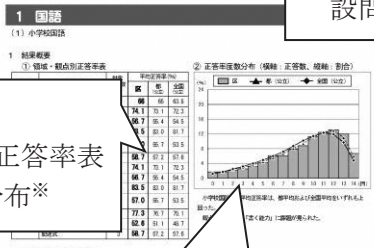
誤答や無解答(どこでつまづいているか)等に
着目した設問ごとの状況

3 設問別集計結果一覧表

設問別の問題情報および区正答率、都平均、全国平均を示す。

1 結果概要

- ① 領域・観点別正答率表
- ② 正答率度数分布*



*横軸は
正答した問題数

2 課題と授業改善の手だて

結果を受けて、教科全体としての課題と、授業改善の手だてについて分析・解説している。

4 課題のある設問

区正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より1題を取り上げ、その解答状況について記載している。

●練馬区立学校学力調査（社会、理科）

「評価の観点」

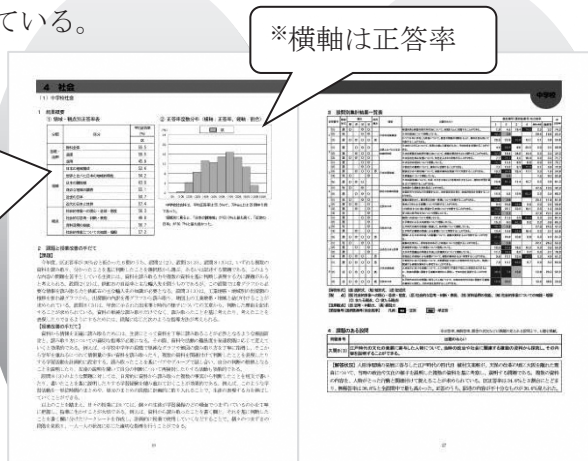
練馬区立中学校および小中一貫教育校生徒指導要録の「指導に関する記録」における「観点別学習状況」の評価の観点である。

「類型番号（選択肢番号）別出現率」

小問別に解答を、正答および準正答、予想される誤答類型、類型外解答、無解答に分類し、それぞれに属する生徒の割合を表示している。

なお、準正答は0.5ポイントで算出している。

- 全国学力・学習状況調査に準ずる
- 1 結果概要
 - ①領域・観点別正答率表
 - ②正答率度数分布*
 - 2 課題と授業改善の手だて
 - 3 設問別集計結果一覧表
 - 4 課題のある設問



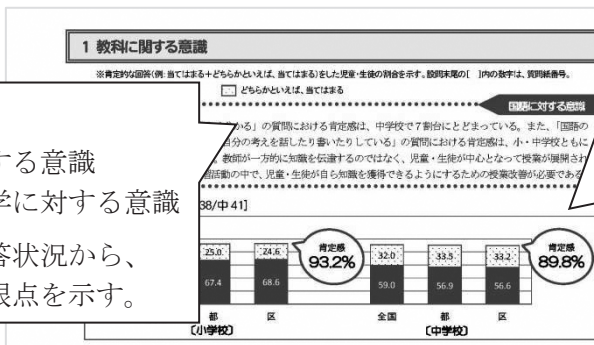
III 質問紙調査の結果 (p. 20~29)

1 教科に関する意識

考察

- p. 22：国語に対する意識
- p. 23：算数・数学に対する意識

それぞれの回答状況から、課題や指導の着眼点を示す。



肯定的な回答割合

各教科4題を取り上げ、それぞれの項目に対して肯定的な回答 (例: 当てはまる+どちらかといえば、当てはまる)をした児童・生徒の割合を「肯定感」として示す。

2 生活の状況

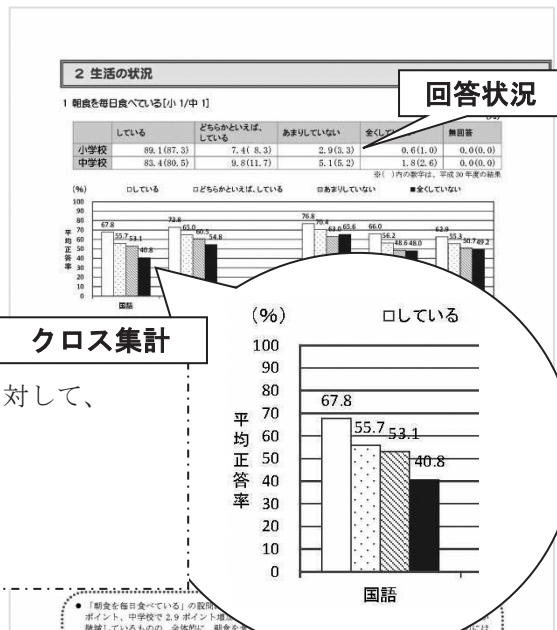
学校や家庭における状況

3 学習の状況

学習習慣、読書、授業における学習姿勢

4 自分自身についての意識

現在の状況と将来の展望



例)
 「朝食を毎日食べていますか」(小学校)に対して、
 ・「している」と回答した児童の
 →国語の平均正答率は67.8%である。
 ・「全くしていない」と回答した児童の
 →国語の平均正答率は40.8%である。

II 学力調査の結果

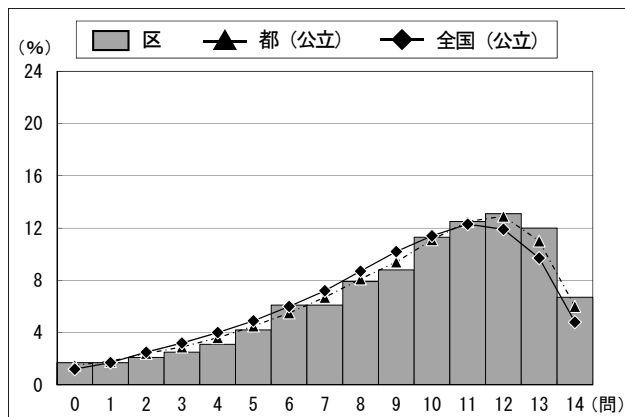
平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果概要

小学校

※教科全体の区および都(公立)の平均正答率は、整数値で公表された。

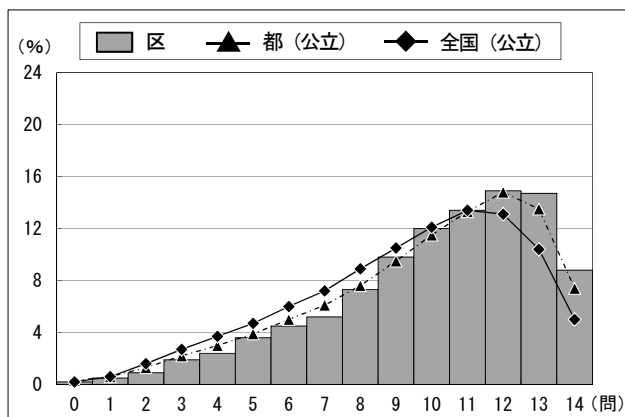
[国語]

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			区	都 (公立)	全国 (公立)	
全体			14	66	65	63.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	74.1	73.1	72.3	
	書くこと	3	56.7	55.4	54.5	
	読むこと	3	83.5	83.0	81.7	
評価の観点	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	57.0	55.7	53.5	
	国語への関心・意欲・態度	3	58.7	57.2	57.6	
	話す・聞く能力	3	74.1	73.1	72.3	
	書く能力	3	56.7	55.4	54.5	
	読む能力	3	83.5	83.0	81.7	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	5	57.0	55.7	53.5	
	選択式	7	77.3	76.7	75.1	
	短答式	4	52.6	51.1	48.7	
	記述式	3	58.7	57.2	57.6	



[算数]

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			区	都 (公立)	全国 (公立)	
全体			14	72	70	66.6
学習指導要領の領域等	数と計算	7	68.5	66.7	63.2	
	量と測定	3	60.4	57.5	52.9	
	図形	2	80.8	79.0	76.7	
評価の観点	数量関係	7	73.8	72.2	68.3	
	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	—	
	数学的な考え方	8	68.0	65.5	62.2	
	数量や図形についての技能	4	79.1	77.2	73.6	
問題形式	数量や図形についての知識・理解	2	72.3	72.7	70.1	
	選択式	5	78.9	78.1	75.7	
	短答式	5	78.6	76.4	72.8	
	記述式	4	54.3	51.5	47.4	



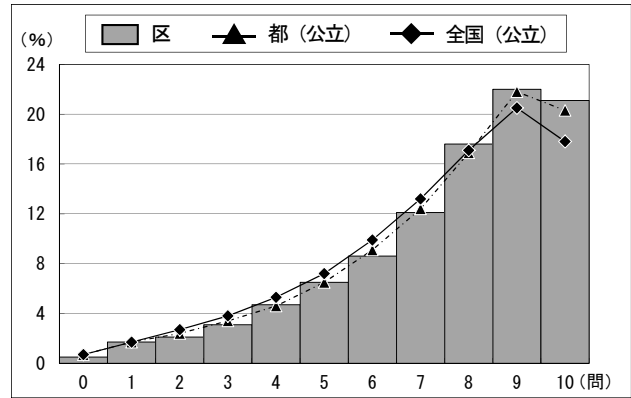
平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果概要

中学校

※教科全体の区および都(公立)の平均正答率は、整数値で公表された。

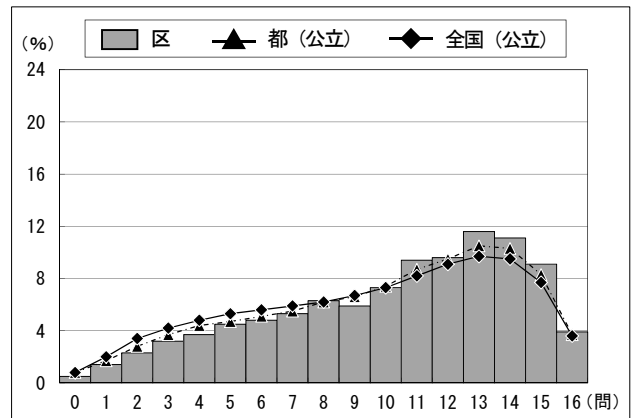
[国語]

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			区	都 (公立)	全国 (公立)	
全体			10	75	74	72.8
学習指 導要領 の領域 等	話すこと・聞くこと	3	72.4	72.2	70.2	
	書くこと	2	84.2	83.0	82.6	
	読むこと	3	74.8	74.3	72.2	
	伝統的な言語文化と国語の特質に 関する事項	2	71.1	69.6	67.7	
評価の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	77.9	77.1	76.5	
	話す・聞く能力	3	72.4	72.2	70.2	
	書く能力	2	84.2	83.0	82.6	
	読む能力	3	74.8	74.3	72.2	
	言語についての知識・理解・技能	2	71.1	69.6	67.7	
問題 形式	選択式	6	76.2	75.7	73.6	
	短答式	1	61.4	59.4	56.8	
	記述式	3	77.9	77.1	76.5	



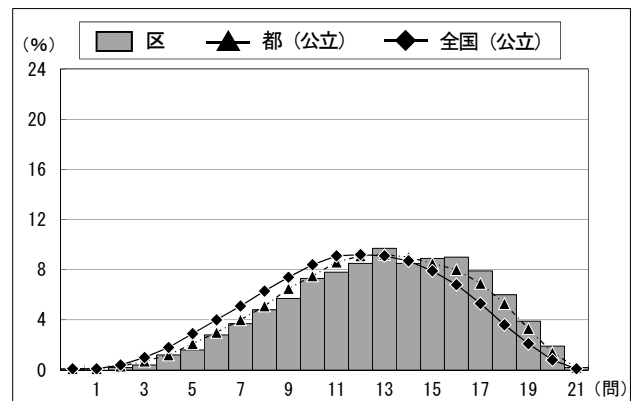
[数学]

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			区	都 (公立)	全国 (公立)	
全体			16	64	62	59.8
学習指 導要領 の領域 等	数と式	5	67.9	65.7	63.8	
	図形	4	77.0	75.0	72.4	
	関数	3	44.7	42.1	40.8	
	資料の活用	4	59.6	57.8	56.3	
評価の 観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	—	
	数学的な見方や考え方	8	54.8	52.8	51.0	
	数学的な技能	3	69.8	66.9	63.9	
	数量や図形などについての知識・ 理解	5	74.5	72.6	71.3	
問題 形式	選択式	5	62.9	61.3	60.3	
	短答式	7	71.8	69.1	66.6	
	記述式	4	50.7	49.0	47.1	



[英語]

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			区	都 (公立)	全国 (公立)	
全体			21	61	59	56.0
学習指 導要領 の領域 等	聞くこと	7	71.7	71.1	67.9	
	話すこと(参考値)					
	読むこと	6	60.9	59.3	55.6	
	書くこと	8	52.4	49.5	45.8	
評価の 観点	コミュニケーションへの関心・意 欲・態度	0	—	—	—	
	外国語表現の能力	1	2.7	2.3	1.8	
	外国語理解の能力	6	49.7	48.2	44.7	
	言語や文化についての知識・理解	14	70.4	68.4	64.7	
問題 形式	選択式	13	75.9	75.1	71.4	
	短答式	5	53.7	49.2	45.2	
	記述式	3	10.6	9.1	6.8	



1 国語

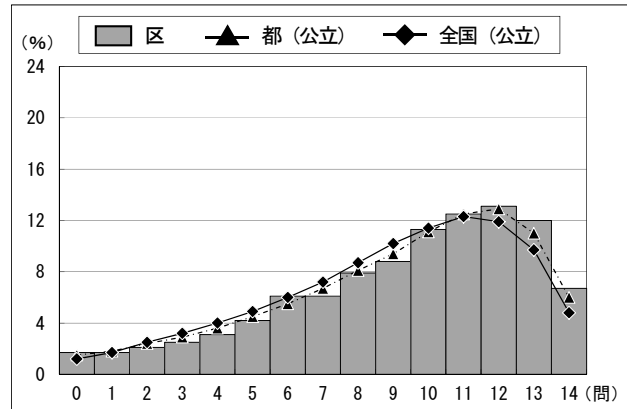
(1) 小学校国語

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			区	都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	66	65	63.8
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	74.1	73.1	72.3
	書くこと	3	56.7	55.4	54.5
	読むこと	3	83.5	83.0	81.7
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	5	57.0	55.7	53.5
評価の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	58.7	57.2	57.6
	話す・聞く能力	3	74.1	73.1	72.3
	書く能力	3	56.7	55.4	54.5
	読む能力	3	83.5	83.0	81.7
	言語についての知識・理 解・技能	5	57.0	55.7	53.5
問題 形式	選択式	7	77.3	76.7	75.1
	短答式	4	52.6	51.1	48.7
	記述式	3	58.7	57.2	57.6

② 正答率度数分布 (横軸：正答数、縦軸：割合)



小学校国語の区平均正答率は、都平均および全国平均をいずれも上回った。

観点別に見ると、「書く能力」に課題が見られた。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

今年度の領域別、観点別、問題形式別の分類において、区平均正答率は全て都平均および全国平均を上回っている。領域別で区平均正答率が低い区分は「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」である。また、観点別においては「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の区平均正答率が低かった。そして、問題形式別においては「短答式」「記述式」の区分の区平均正答率が低かった。

誤答の多かった設問は、決まった条件の下である程度の長さの文章を書いて解答する記述式であった。誤答の傾向としては、ふさわしい表現で書いていない、あるいはふさわしい表現で書いているものの、設問が示す条件を満たしていないことが挙げられる。また、既習の漢字を書く設問においても誤答が多かった。

これらの結果から、設問が示す条件を確実に把握すること、設問の主旨に沿ってある程度の長さで適切に文章を書くこと、既習の漢字を身に付けるための語彙力に課題があると言える。

【授業改善の手だて】

指導領域「書くこと」に焦点を当て、目的や意図に応じて、読み手に分かりやすい文章を書く力を高める指導を充実させることが必要である。児童は日常的に様々な文章を書くことに取り組んでいる。しかし、授業において、示された条件を満たして長文を書くという学習活動に取り組むことはそれほど多くない。

そこで、目的に応じて、条件を満たした上で書く活動を意図的に取り入れることが大切である。具体的には、「新聞やリーフレットなど、分量や形式の規定が明確なもの」「意見文や説明文など、自分の主張を伝える読み手が定められているもの」といった作品を作る目的を明確にし、児童が意識して取り組むことができるような学習活動を授業に取り入れていくことが考えられる。

また、教師が具体的な条件（「低学年に伝えることを想定して書こう」「具体的な例を二つ挙げて書こう」など）を提示して文章を書かせるようにすることも有効な手だてである。

さらに、そうして仕上がった作品が多様な語彙を活用して書かれているか、適切な表現を用いているかを確認したり、児童同士で刺激し合ったり認め合ったりするために、児童相互で作品を見合う必要もある。

このような学習活動を、国語科のみならず、各教科・領域においても意図的、計画的に設定し、繰り返し行うことによって定着を図ることが期待される。

3 設問別集計結果一覧表

問題番号	問題形式	評価の観点					従来の区分	領域	問題の概要	正答率(%)			
		関	話	書	読	言				知	活	区	都(公立)
1一	選			○			○	○	書くこと	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	74.8	72.9	71.2
1二	選			○			○	○	書くこと	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	64.7	65.0	63.4
1三	述	○		○				○		公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	30.7	28.3	28.8
1四(1)ア	短					○	○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(調査のたいしよう)	40.3	42.2	41.9
1四(1)イ	短					○	○	○		公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部イを、漢字を使って書き直す(友達にかざらず)	72.5	71.5	69.4
1四(1)ウ	短					○	○	○		公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)	44.3	39.8	35.6
1四(2)	短					○	○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	53.5	51.1	47.8
2一(1)	選			○			○	○	読むこと	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□アに入る、疑問に思ったこと①に対する答えとして適切なものを選択する	84.2	83.5	80.7
2一(2)	述	○		○				○		食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□イに、疑問に思ったこと②に対する答えになるように考えて書く	78.1	77.0	75.9
2二	選			○			○	○	読むこと	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	88.1	88.4	88.5
3一	選			○			○	○	話すこと・聞くこと	量職人への【インタビューの様子】の□アに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	83.8	83.0	81.3
3二	選			○			○	○		量職人への【インタビューの様子】の□□□□の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	71.3	70.2	67.4
3三	述	○		○				○		【インタビューの様子】の□イに、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	67.3	66.2	68.2
3四	選					○	○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の□ウに入る適切なものを選択する(習うより慣れよ)	74.3	74.1	73.0

【問題形式】(選)選択式、(短)短答式、(述)記述式

【評価の観点】(関)国語への関心・意欲・態度、(話)話す・聞く能力、(書)書く能力、(読)読む能力、(言)言語についての知識・理解・技能

【従来の区分】(知)「知識」に関する問題、(活)「活用」に関する問題

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	問題の概要	解答類型(%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
大問1 三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	30.7	0.1	10.5	16.0	7.2	8.4	0.7	0.7	21.6	4.1

【解答類型】凡例：99.9…解答として求める条件を全て満たしている正答

99.9…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

【解答状況】公衆電話について調べたことを【報告する文章】を読み、文章全体の構成を踏まえた上で、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の空欄に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く問題である。正答するためには、(1)と(2)の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書く、【報告する文章】にふさわしい表現で書く、書き出しの言葉に続けて、40字以上、70字以内で書くという三つの条件を満たしている必要がある。区正答率は30.7%と全設問中で最も低かった。誤答のうち、【報告する文章】にふさわしい表現で書いていないものが10.5%、【報告する文章】にふさわしい表現で書いているものの、(1)からのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いているものが16.0%見られた。

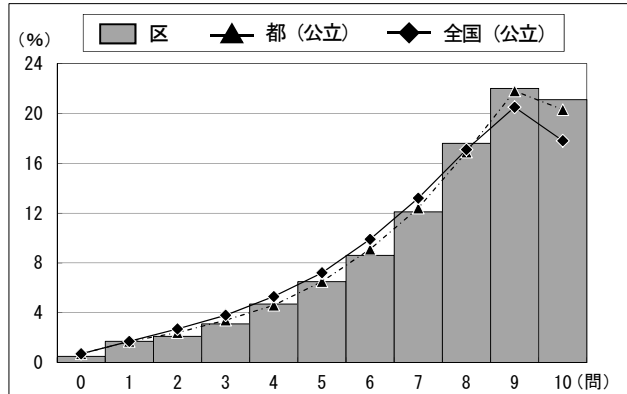
(2) 中学校国語

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			区	都 (公立)	全国 (公立)
全体		10	75	74	72.8
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	72.4	72.2	70.2
	書くこと	2	84.2	83.0	82.6
	読むこと	3	74.8	74.3	72.2
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	2	71.1	69.6	67.7
評価の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	77.9	77.1	76.5
	話す・聞く能力	3	72.4	72.2	70.2
	書く能力	2	84.2	83.0	82.6
	読む能力	3	74.8	74.3	72.2
	言語についての知識・理 解・技能	2	71.1	69.6	67.7
問題 形式	選択式	6	76.2	75.7	73.6
	短答式	1	61.4	59.4	56.8
	記述式	3	77.9	77.1	76.5

② 正答率度数分布 (横軸：正答数、縦軸：割合)



中学校国語の区平均正答率は、都平均および全国平均をいずれも上回った。

観点別に見ると、「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られた。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

設問2三の区正答率は、62.3%と6割を超えているものの、全設問中で二番目に低く、都平均の62.5%と比べても低い結果となっている。無解答率は7.0%と全設問中で最も高かった。これは本区の生徒のみに特徴的な傾向ではなく、都および全国でも同様の結果となっている。この設問では、【話し合いの一部】を読み、話し合いの話題や方向を捉える力や、未解決の部分に気づき、それを解決するための具体案を考える力、そして実際に話すように書くという文語体と口語体を使い分けて書く力が必要になってくる。

さらに、設問1四の区正答率も61.4%と低い値を示している。これは全設問中で最も低い正答率であるが、この結果も本区の生徒のみに特徴的な傾向ではなく、都および全国でも同様の結果となっている。この設問は封筒に投稿先の名前と住所を適切に書く問題である。

どちらの設問も、解答するためには指定された条件に従って書く力が必要になる。また、それに加え設問2三では、話し合いの内容を正確に把握する力が必要となる。これらの結果から、次の課題を読み取ることができる。一つは、文章で表すことに苦手意識をもつ生徒が半数近くいるということである。そのうち1割近い生徒については書くこと自体に抵抗感をもっていると考えられる。もう一つは、設問の内容を把握する力が十分でない生徒がいるということである。正確に内容を把握し、それに応じて自分の考えをもてるようにすることが課題である。

【授業改善の手だて】

上記の課題を解決するためには、小学校の学習内容を意識した授業づくりを通して、授業において既習事項の振り返りを確実に行うことが必要である。手紙の書き方等、文章の形式や書き方については、小学校でも学習している内容である。そのため、学習計画を作成するに当たっては、小学校国語科との学習の系統性を重視し、らせん的・反復的に繰り返しながら学習し、知識の定着を図ることが大切である。

また、「知識及び技能」と「話すこと・聞くこと」「読むこと」、または「知識及び技能」と「書くこと」の学習を関連付けて指導する必要がある。具体的には、説明的文章の「読むこと」の学習において、「意見と根拠との関係を理解するとともに、判断や考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解する」ことが求められている。また、「書くこと」の学習においては、「根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫」できるように授業を展開することが大切である。具体的な言語活動としては、立場によって意見が分かれる問題や、一つの結論に収められず、様々な結論を導くことができる話題など、多様な考え方ができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動が考えられる。

3 設問別集計結果一覧表

問題番号	問題形式	評価の観点					従来の区分	領域	問題の概要	正答率(%)		
		関	話	書	読	言				知	活	区
1一	選				○	○	○	読むこと	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものととして適切なものを選択する	68.0	68.1	63.9
1二	選				○	○	○	読むこと	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	64.3	63.8	61.5
1三	述	○			○		○	読むこと	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	92.1	90.9	91.2
1四	短				○	○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	61.4	59.4	56.8
2一	選		○				○	話すこと・聞くこと	話合いでの発言の役割について説明したものととして適切なものを選択する	82.9	82.3	80.4
2二	選		○				○	話すこと・聞くこと	話合いでの発言について説明したものととして適切なものを選択する	72.0	71.9	69.7
2三	述	○	○				○	話すこと・聞くこと	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	62.3	62.5	60.4
3一	選			○			○	書くこと	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	89.1	88.1	87.4
3二	述	○	○				○	書くこと	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	79.3	77.9	77.8
4	選				○	○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	80.8	79.8	78.7

【問題形式】(選)選択式、(短)短答式、(述)記述式

【評価の観点】(関)国語への関心・意欲・態度、(話)話す・聞く能力、(書)書く能力、(読)読む能力、(言)言語についての知識・理解・技能

【従来の区分】(知)「知識」に関する問題、(活)「活用」に関する問題

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	問題の概要	解答類型(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答	
大問2 三	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	62.3	0.0	10.4	1.0						19.2	7.0

【解答類型】凡例：999…解答として求める条件を全て満たしている正答

999…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

【解答状況】【話し合いの一部】を読み、話し合いの話題や方向を捉えた上で、空欄Aに「どうするか決まっていないうこと」について自分ならどのような考えを述べるかを書く問題である。正答するためには、話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」とは何かを明確にして書く、「どうするか決まっていないうこと」を解決する具体的な案を書く、実際に話すように書くという三つの条件を満たしている必要がある。区正答率は62.3%と6割を超えているものの、全設問中で二番目に低く、無解答率は7.0%と全設問中で最も高かった。誤答のうち、「どうするか決まっていないうこと」を解決する具体的な案を書いていないものが10.4%見られた。

2 算数・数学

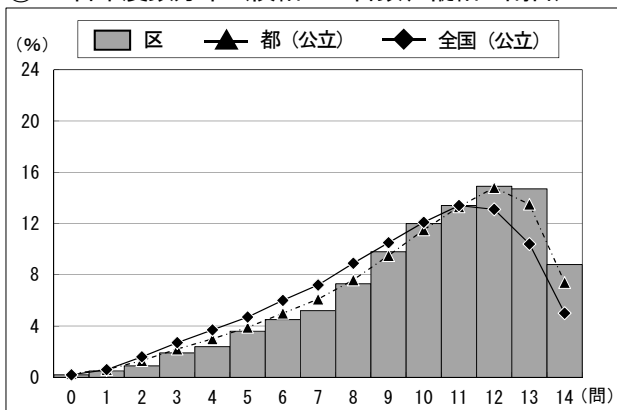
(1) 小学校算数

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			区	都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	72	70	66.6
学習指導 要領の 領域等	数と計算	7	68.5	66.7	63.2
	量と測定	3	60.4	57.5	52.9
	図形	2	80.8	79.0	76.7
	数量関係	7	73.8	72.2	68.3
評価の 観点	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	数学的な考え方	8	68.0	65.5	62.2
	数量や図形についての技能	4	79.1	77.2	73.6
	数量や図形についての知識・理解	2	72.3	72.7	70.1
問題 形式	選択式	5	78.9	78.1	75.7
	短答式	5	78.6	76.4	72.8
	記述式	4	54.3	51.5	47.4

② 正答率度数分布 (横軸：正答数、縦軸：割合)



小学校算数の区平均正答率は、都平均および全国平均をいずれも上回った。

観点別に見ると、「数学的な考え方」に課題が見られた。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

今年度の区平均正答率は、領域別において、都平均および全国平均を全ての領域で上回っている。しかし、「数と計算」領域のうち、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に除法に関して成り立つ性質を記述する設問3(2)では、区正答率が36.0%であった。これは本区だけではなく、都および全国を見ても同じ状況にある。

また、「量と測定」領域では、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する設問1(3)において、区正答率が50%程度であった。

例年同様、他の問題形式よりも記述式の設問の区正答率が低いことから、言語活動の充実が十分に図られているか、これまでの指導改善の検証が求められるところである。

さらに、「図形」領域では、図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで他の図形を構成することに、「数量関係」領域では、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題が見られた。

【授業改善の手だて】

「課題のある設問」で取り上げているような、計算の仕方を解釈して発展的に考察する問題では、適用する数の範囲を広げていながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、商が同じになるいくつかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ性質を見出す活動が考えられる。その際、被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げていながら、見いだしたことが他の数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることが大切である。

その上で、見いだした除法に関して成り立つ性質を表現する活動が考えられる。その際、児童が除法に関して成り立つ性質を「わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は4や5で変わらない。」などと具体的な数を用いて表現した場合には、「どの数でも当てはまるようにまとめるとどうなるか。」と問い返し、一般的に表現しようとする態度を育てることが大切である。また、商といった算数の用語を適切に用いた説明を取り上げたり、「わり算の答えのことを何と言いますか。」などと問い掛けたりすることを通して、算数の用語を用いて表現することができるようにすることも大切である。

なお、小数や分数の除法の計算の仕方や同じ大きさを表す分数などの学習においても、除法に関して成り立つ性質が活用されていることを確認することが大切である。

3 設問別集計結果一覧表

問題番号	問題形式	評価の観点				領域	問題の概要	正答率(%)		
		関	考	技	知			区	都(公立)	全国(公立)
1(1)	選			○	○	図形	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	93.7	93.9	93.1
1(2)	選		○		○	図形	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくり出せる形を選ぶ	67.9	64.2	60.3
1(3)	述	○			○	量と測定	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	50.4	48.5	43.9
2(1)	選		○		○	数量関係	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	95.5	95.1	95.2
2(2)	短		○		○	数と計算／数量関係	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	86.2	83.9	78.6
2(3)	述	○			○	量と測定／数量関係	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	63.5	58.5	52.1
2(4)	短		○		○	数と計算／数量関係	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6+0.5 \times 2$ を計算する	66.8	65.5	60.1
3(1)	短	○			○	数と計算	$350-97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	86.0	83.5	81.8
3(2)	述	○			○	数と計算	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く	36.0	33.6	31.1
3(3)	短	○			○	数と計算	被除数と除数にかけた数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	77.6	75.8	74.9
3(4)	選			○	○	数と計算／数量関係	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	50.8	51.5	47.0
4(1)	選	○			○	数量関係	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	86.8	85.5	82.7
4(2)	短	○			○	数と計算	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く	76.2	73.3	68.6
4(3)	述	○			○	量と測定／数量関係	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	67.2	65.4	62.6

【問題形式】(選) 選択式、(短) 短答式、(述) 記述式

【評価の観点】(関) 算数への関心・意欲・態度、(考) 数学的な考え方、(技) 数量や図形についての技能、(知) 数量や図形についての知識・理解

【従来の区分】(知) 「知識」に関する問題、(活) 「活用」に関する問題

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	問題の概要	解答類型(%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
大問3(2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く	35.7	0.3	8.0	1.1	2.7	0.1	0.0	11.4	3.3	4.1
		11	12	13	14	15	16	17	18	99	無解答
										21.2	12.1

【解答類型】凡例：**99.9**…解答として求める条件を全て満たしている正答

99.9…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

【解答状況】設問に示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述する問題である。正答するためには、被除数と除数に同じ数をかけること、被除数と除数を同じ数で割ること、いずれの計算の仕方でも商が変わらないことの三点を書くことが必要である。区正答率は36.0%と全設問中で最も低く、無解答率は12.1%と全設問中で最も高かった。誤答のうち、被除数と除数に同じ数をかけることと、被除数と除数を同じ数で割ることについては具体的な数を用いて記述できているが、商が変わらないことは記述できていないものが11.4%見られた。

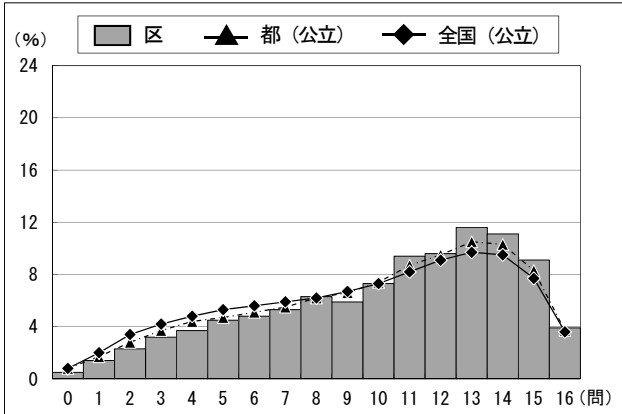
(2) 中学校数学

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			区	都 (公立)	全国 (公立)
全体		16	64	62	59.8
学習指導 要領の 領域等	数と式	5	67.9	65.7	63.8
	図形	4	77.0	75.0	72.4
	関数	3	44.7	42.1	40.8
	資料の活用	4	59.6	57.8	56.3
評価の 観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	数学的な見方や考え方	8	54.8	52.8	51.0
	数学的な技能	3	69.8	66.9	63.9
	数量や図形などについての 知識・理解	5	74.5	72.6	71.3
問題 形式	選択式	5	62.9	61.3	60.3
	短答式	7	71.8	69.1	66.6
	記述式	4	50.7	49.0	47.1

② 正答率度数分布 (横軸：正答数、縦軸：割合)



中学校数学の区平均正答率は、都平均および全国平均をいずれも上回った。

観点別に見ると、「数学的な見方や考え方」に課題が見られた。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

今年度の区平均正答率は、領域別、観点別ともに、都平均および全国平均を2～6ポイント程度上回っている。「数学的な技能」を問う問題では、全国平均を約6ポイント上回っており、数学的な技能の定着が図られていることがうかがえる。

設問別集計結果から分析すると、「資料の活用」領域の「数学的な見方や考え方」を問う設問8(2)で都平均および全国平均をやや下回っている。具体的には、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。用語の理解や、資料の表やグラフへの表し方の習得にとどまるのではなく、身に付けた知識・技能を活用し、問題解決することができるように指導していくことが大切である。また、記述式の問題では、無解答率がおおむね1～2割程度であった。これは本区だけではなく、都および全国でも同じ状況である。数学的に考える資質・能力を育成することが課題である。

【授業改善の手だて】

「資料の活用」領域では、目的に応じてデータを収集して分析し、その傾向を読み取って判断する力や、よりよい解決や結論を見いだすに当たって、データに基づいた判断や主張を批判的に考察する力の育成を目指している。そのため、他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返った上で、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりする活動を多く取り入れていく必要がある。日常生活や社会における問題を取り上げ、「①問題把握、②調査計画の立案、③データの収集および処理、④傾向の分析、⑤結論のまとめ」という統計的な問題解決における一連の活動を経験し、学習した知識・技能を活用することで深い学びの実現を目指す指導が求められる。

また、新学習指導要領においては、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することが求められているため、次の3点を重点的に指導していく必要がある。

- ① 日常の事象や社会の事象から問題を見だし解決する活動
- ② 数学の事象から問題を見だし解決する活動
- ③ 数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動

このような学習活動を、意図的、計画的に学習計画の中に位置付けていくことにより、数学科の目標が達成されることが期待できる。中でも、「③数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動」では、説明する根拠を明確にし、適切な表現が用いられるように指導することが求められる。

3 設問別集計結果一覧表

問題番号	問題形式	評価の観点				領域	問題の概要	正答率(%)		
		関	考	技	知			区	都(公立)	全国(公立)
1	選				○	数と式	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	62.4	60.6	62.2
2	短				○	数と式	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	76.1	74.2	70.1
3	短				○	図形	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	85.7	84.9	83.6
4	短				○	関数	反比例の表から式を求める	53.3	50.2	48.9
5	短				○	資料の活用	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	79.9	76.2	72.8
6(1)	選				○	関数	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pの y 座標と点Qの y 座標の差が表すものを選ぶ	41.4	39.4	38.8
6(2)	述				○		冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	39.3	36.6	34.7
7(1)	短				○	図形	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	82.4	79.6	75.8
7(2)	選				○	図形	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	80.2	79.2	77.2
7(3)	述				○	図形	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF=CE$ になるかを説明する	59.8	56.4	53.3
8(1)	短				○	資料の活用	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	62.0	58.7	57.9
8(2)	述				○	資料の活用	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	40.5	41.0	40.8
8(3)	選				○	資料の活用	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	56.0	55.4	53.6
9(1)	短				○	数と式	説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する	63.4	60.0	57.4
9(2)	述				○		連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	63.2	61.8	59.7
9(3)	選				○		連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ	74.4	71.9	69.6

【問題形式】(選)選択式、(短)短答式、(述)記述式

【評価の観点】(関)数学への関心・意欲・態度、(考)数学的な見方や考え方、(技)数学的な技能、(知)数量や図形などについての知識・理解

【従来の区分】(知)「知識」に関する問題、(活)「活用」に関する問題

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	問題の概要	解答類型(%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
大問8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	0.2	13.1	0.3	26.9	0.1	1.6	0.1	10.1	1.8	4.6
		11	12	13	14	15	16	17	18	99	無解答
		2.0								20.6	18.7

【解答類型】凡例： **99.9** …解答として求める条件を全て満たしている正答

99.9 …設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

【解答状況】「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切でない理由を、ヒストグラムから読み取れるデータの傾向を基に、数学的な表現を用いて説明する問題である。「1日あたりの読書時間である26分が、山の頂上の位置にない」こと、または、「1日あたりの読書時間である26分が、度数が最大である階級に含まれていない」ことを明示して記述することが求められている。区正答率は40.5%と全設問中で二番目に低く、無解答率は18.7%と全設問中で最も高かった。誤答のうち、根拠として「1日あたりの読書時間である26分が、度数が最大である階級に含まれていない」ことを明示せずに度数の大小について記述し、説明すべき事柄を記述していないものが10.1%見られた。

3 英語

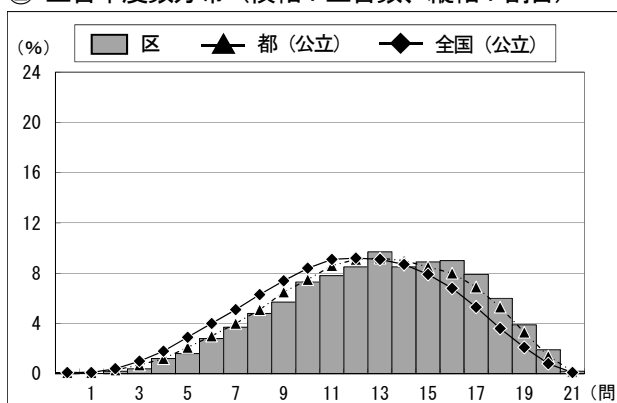
(1) 中学校英語

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			区	都 (公立)	全国 (公立)
全体		21	61	59	56.0
学習指導 要領の 領域等	聞くこと	7	71.7	71.1	67.9
	話すこと (参考値)				
	読むこと	6	60.9	59.3	55.6
	書くこと	8	52.4	49.5	45.8
評価の 観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	0	—	—	—
	外国語表現の能力	1	2.7	2.3	1.8
	外国語理解の能力	6	49.7	48.2	44.7
	言語や文化についての知識・ 理解	14	70.4	68.4	64.7
問題 形式	選択式	13	75.9	75.1	71.4
	短答式	5	53.7	49.2	45.2
	記述式	3	10.6	9.1	6.8

② 正答率度数分布 (横軸：正答数、縦軸：割合)



中学校英語の区平均正答率は、都平均および全国平均をいずれも上回った。

観点別に見ると、「外国語表現の能力」に課題が見られた。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

教科全体の区平均正答率は61%で、都平均および全国平均を上回っており、本区生徒の英語の学力はおおむね良好であると言える。領域別、観点別に区平均正答率を見ると、全ての領域および観点で都平均および全国平均を上回っているものの、「書くこと」は50%台、「外国語表現の能力」は10%未満、「外国語理解の能力」は40%台であり、課題が見られた。一方、区平均正答率と都平均および全国平均との差を領域別に見ると、インプットの技能（聞くこと、読むこと）に比べ、アウトプットの技能（書くこと）で区平均正答率がより大きく上回っている。

設問別の区正答率を比較すると、設問1(1)(4)の「聞くこと」、設問9(1)②の「書くこと」の区正答率は都平均を下回った。例えば、設問1(1)(4)は、ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表現している絵を選択する問題であり、日常的な話題について情報を正確に聞き取ることに課題があることが分かる。また、設問9(1)②は、文中の空所に入れる接続詞を選択する問題であり、まとまりのある文章の中で適切な接続詞を用いることができていないことが分かる。

【授業改善の手だて】

これらの課題を授業内で改善するために、二つの手だてが考えられる。

○文法事項の定着に向けた取組

文構造を明確に示し理解させることや、接続詞の使い方を様々な場面を通じて理解させることが必要である。具体的な取組として、二つの方策を挙げる。

- ・授業導入時の Small Talk 等の場面や、新出文法導入時の会話で、教師が意図的に接続詞を活用するように工夫する。
- ・接続詞については、3年間を通して繰り返し学ぶ場面があるので、主節・接続詞・従属節の関係を理解させ、等位接続詞と従位接続詞の使い分けができるようにする。

○英文を書く力を高める取組

領域別で「書くこと」に課題が見られることから、書く力を高める必要がある。毎時間英文を書く時間を確保し、書くことを習慣化することが求められる。具体的な取組として、二つの方策を挙げる。

- ・新出文法導入後、その文型を活用して必ず英文を書くようにする。その際、自分自身または日常生活に関連したことについて英文を書かせることで、表現がより定着すると考えられる。
- ・接続詞に続く従属節およびその他の表現を復習し、接続詞を用いて読みやすく分かりやすい文章を書くことができるようにする。

3 設問別集計結果一覧表

問題番号	問題形式	評価の観点			従来 の 区 分	領域	問題の概要	正答率(%)				
		関	表	理				知	知	活	区	都 (公立)
1(1)	選				○	○	聞くこと	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	92.2	93.1	91.1	
1(2)	選				○	○		教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	92.9	91.8	88.6	
1(3)	選				○	○		外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	77.7	75.7	72.3	
1(4)	選				○	○		家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	65.5	66.7	61.8	
2	選				○	○	聞くこと	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	74.0	73.8	71.8	
3	選				○	○		天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	87.0	85.0	82.0	
4	述				○	○	聞くこと	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	12.8	11.6	7.6	
5(1)	選				○	○	読むこと	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	86.2	83.5	79.4	
5(2)	選				○	○		ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	76.8	76.7	74.4	
5(3)	選				○	○		月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	78.3	76.7	73.1	
6	選				○	○	読むこと	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	69.9	67.9	62.9	
7	選				○	○		テンバナーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	37.8	37.5	32.8	
8	述				○	○	読むこと	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	16.3	13.5	10.9	
9(1)①	選				○	○	書くこと	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	83.2	81.9	79.9	
9(1)②	選				○	○		文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	65.1	65.5	58.2	
9(2)①	短				○	○		与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	79.9	77.8	73.6	
9(2)②	短				○	○		与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	38.4	35.9	28.9	
9(3)①	短				○	○		与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	60.7	55.7	53.5	
9(3)②	短				○	○		与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	43.7	35.8	32.9	
9(3)③	短				○	○		与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	45.7	40.9	37.4	
10	述				○	○		書くこと	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	2.7	2.3	1.8

【問題形式】(選)選択式、(短)短答式、(述)記述式

【評価の観点】(関)コミュニケーションへの関心・意欲・態度、(表)外国語表現の能力、(理)外国語理解の能力、(知)言語や文化についての知識・理解

【従来の区分】(知)「知識」に関する問題、(活)「活用」に関する問題

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	問題の概要	解答類型(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答	
大問4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	5.8	7.1	34.6	13.8						3.4	35.3

【解答類型】凡例：999…解答として求める条件を全て満たしている正答

999…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

【解答状況】来日予定の留学生であるニックからの音声メッセージを聞き、メッセージの内容を踏まえて、ニックができる部活動についてのアドバイスを英語で書く問題である。ニックからの依頼の内容を正しく理解し、適切な応答を返すことが求められている。区正答率は12.8%と全設問中で二番目に低く、無解答率は35.3%と全設問中で最も高かった。誤答のうち、ニックができる部活動についてのアドバイスになっていないものが34.6%、書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあるため、伝えたい内容が理解できないものが13.8%見られた。

4 社会

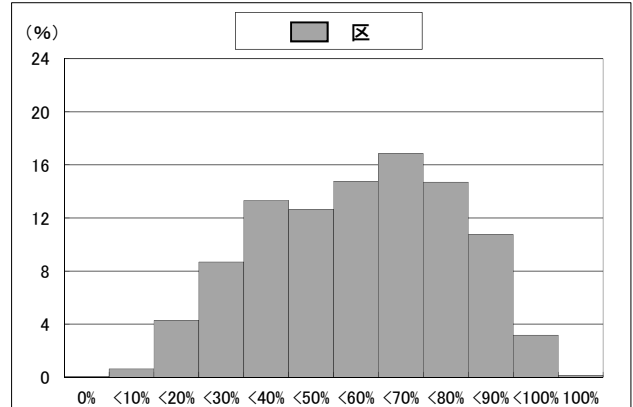
(1) 中学校社会

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	平均正答率 (%)
		区
基礎・活用	教科全体	55.5
	基礎	58.5
	活用	45.9
領域	日本の地域構成	52.6
	世界と比べた日本の地域的特色	54.2
	日本の諸地域	63.0
	身近な地域の調査	55.1
	近世の日本	50.7
	近代の日本と世界	57.4
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	56.3
	社会的な思考・判断・表現	49.8
	資料活用の技能	56.7
	社会的事象についての知識・理解	57.2

② 正答率度数分布 (横軸：正答率、縦軸：割合)



中学校社会科は、平均正答率は55.5%で、70%以上は29問中6問であった。

領域別に見ると、「日本の諸地域」が63.0%と最も高く、「近世の日本」が50.7%と最も低かった。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

今年度、区正答率が30%台と低かった6問のうち、設問2(2)、設問3(3)、設問8(3)は、いずれも複数の資料を読み取り、分かったことを基に判断したことを選択肢から選ぶ、あるいは記述する問題である。このような内容の問題を苦手としている生徒には、資料を読み取る力や複数の資料を基に判断し表現する力に課題があると考えられる。設問2(2)は、鉄鉱石の自給率と主な輸入先を問うものであるが、この設問では帯グラフから必要な情報を読み取る力と鉄鉱石の主な輸入先の知識が必要となる。設問3(3)は、工業地帯・地域別の出荷額の推移を折れ線グラフから、出荷額の内訳を帯グラフから読み取り、地図上の工業地帯・地域と結び付けることが求められている。設問8(3)は、年表に示された出来事と時代の様子についての文章から、判断した理由を記述することが求められている。資料の単純な読み取りだけでなく、読み取ったことを基に考えたり、考えたことを表現したりできるようにするためには、段階に応じた次のような指導方法が考えられる。

【授業改善の手だて】

資料から情報を正確に読み取るためには、生徒にとって資料を丁寧に読み取ることが必然となるような場面設定と、読み取り方についての適切な指導が必要になる。その際、資料や活動の難易度を発達段階に応じて変えていくと効果的である。例えば、小学校中学年の段階で単純なグラフや地図の読み取り方を丁寧に指導し、そこから学年を重ねるにつれて情報量の多い資料を読み取ったり、複数の資料を関連付けて判断したことを表現したりする学習活動を計画的に設定する。読み取ったことを基にペアやグループで話し合い、自分の判断の根拠となることを説明したり、友達の説明を聞いて自分の判断について再検討したりする活動も効果的である。

設問8(3)のような問題に対しては、日常的に資料から読み取った複数の事実から判断したことを短文で書いたり、書いたことを基に説明したりする学習経験を積み重ねておくことが効果的である。例えば、このような学習活動を一単位時間のまとめや、単元のまとめの段階に計画的に取り入れることで、生徒の表現する力を伸ばしていくことができる。

以上のことを踏まえ、日々の授業においては、個々の生徒が学習過程のどの場面つまづいているのかを丁寧に把握し、指導に生かすことが大切である。例えば、資料から読み取ったことを書く欄と、それを基に判断したことを書く欄に分けたワークシートを作成し、計画的に授業で使用していくなどすることで、個々のつまづきの段階を見取り、一人一人の状況に応じた適切な指導を行うことができる。

3 設問別集計結果一覧表

設問番号	解答形式	観点				活用観点	領域	出題のねらい	類型番号(選択肢番号)別出現率						区正答率
		関	思	技	知				1	2	3	4	類型外解答	無解答	
1	(1) 選	○	◎	○	○	思	日本の地域構成	都道府県と都道府県庁所在地について、地図をもとに把握することができる。	1.9	4.5	19.4	74.0	0.0	0.2	74.0
	(2) 短			○	◎			日本の領域について理解している。	48.3	3.6			29.4	18.6	50.2
	(3) 選	○	◎	○	○			かつて日本に存在した時差について、経度や経緯線の理解をもとに、資料を読み取って判断することができる。	28.8	23.9	33.6	13.1	0.1	0.6	33.6
2	(1) 選		○	◎	○	思	世界と比べた日本の地域的特色	日本の川とダムについて、世界と比較した資料をもとに、その特色を把握することができる。	4.4	58.9	6.6	30.0	0.0	0.1	58.9
	(2) 選		◎	○	○			日本の資源の自給率や輸入先について、複数の資料をもとに判断することができる。	32.0	16.4	36.8	14.4	0.0	0.3	32.0
	(3) 選	○	◎	○	○			日本各地を結ぶ交通について、特色をふまえて考察することができる。	7.7	71.7	4.0	16.4	0.0	0.3	71.7
3	(1) 選			○	◎	思	日本の諸地域	日本各地の地形について理解している。	75.7	10.4	6.9	6.8	0.0	0.2	75.7
	(2) 選			◎	○			中部地方の農業について、資料から把握することができる。	7.1	10.2	9.1	72.9	0.1	0.6	72.9
	(3) 選		◎	○	○			関東地方の工業地域について、複数の資料を関連づけて判断することができる。	18.2	34.6	28.4	17.1	0.0	1.6	34.6
	(4) 短	○			◎			世界遺産について理解している。	77.7	5.8			7.5	9.0	80.6
	(5) 選	○	◎	○				日本の諸地域について、生活・文化を中核とした考察の仕方をもとに、適切な学習計画を立てて探究することができる。	15.6	61.3	11.4	10.7	0.0	0.9	61.3
4	(1) 短	○		◎	○	思	身近な地域の調査	地形図から標高を読み取ることができる。	42.0				47.5	10.5	42.0
	(2) 選		○	◎	○			地図記号や方位などの理解をもとに、地形図を読み取り、地域の特色を把握することができる。	12.5	5.8	12.9	68.2	0.0	0.5	68.2
5	(1) 短	○		◎	○	思	近世の日本	複数の資料から、豊臣秀吉の統一事業について把握することができる。	60.6	2.6			25.1	11.6	61.9
	(2) 選	○	◎	○	○			徳川幕府による影響について判断することができる。	9.5	25.6	58.6	5.8	0.0	0.5	58.6
	(3) 選		◎	○	○			16世紀のキリスト教に関連する史実について判断することができる。	34.8	22.7	23.2	18.1	0.0	1.3	34.8
	(4) 短				◎			安土桃山時代の文化について理解している。	37.9	1.1			37.9	23.1	38.4
6	(1) 選			○	◎	思	近世の日本	鎖国への歩みについて理解している。	12.4	17.3	5.5	61.4	0.0	3.3	61.4
	(2) 選			◎	○			江戸幕府による大名統制について理解している。	15.3	6.0	65.3	9.8	0.0	3.6	65.3
	(3) 短				◎			江戸時代の都市の発展に関連して、株仲間について理解している。	46.4	1.4			27.8	24.5	47.0
	(4) 選		◎	○	○			江戸時代の農業の発達による影響について考察することができる。	10.4	15.9	53.6	16.4	0.0	3.7	53.6
	(5) 選	○	◎	○	○			開国による日本の社会への影響について、複数の資料をもとに判断することができる。	51.0	24.6	10.6	9.6	0.0	4.2	51.0
7	(1) 短	○		◎	○	思	近代の日本と世界	複数の史実から、明治政府のめざした政策について把握することができる。	50.0	1.6			22.1	26.3	50.8
	(2) 選		○		◎			西南戦争が起こった背景について理解している。	18.5	50.9	16.8	10.0	0.0	3.8	50.9
	(3) 選				◎			大日本帝国憲法の草案を作成した伊藤博文について理解している。	11.1	76.9	6.0	2.2	0.0	3.7	76.9
	(4) 選	○	◎	○	○			地租改正の実施による影響について、複数の資料をもとに考察することができる。	9.6	10.7	23.5	51.2	0.0	4.9	51.2
8	(1) 選	○	◎	○	○	表	日本の諸地域	中部地方における特色について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに、気候に関連する複数の資料から探究することができる。	7.8	13.7	63.8	9.7	0.0	5.0	63.8
	(2) 述	○	◎	○	○			九州地方における政策について、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方をもとに、地域の課題に関連する複数の資料から探究し、その内容を説明することができる。	36.8	7.6	15.6		10.6	29.3	52.2
	(3) 述	○	◎	○	○		近世の日本	江戸時代の文化の発展に寄与した人物について、当時の政治や社会に関連する複数の資料から探究し、その内容を説明することができる。	19.8	30.0			13.4	36.8	34.8

【解答形式】(選) 選択式、(短) 短答式、(述) 記述式

【観 点】(関) 社会的現象への関心・意欲・態度、(思) 社会的な思考・判断・表現、(技) 資料活用技能、(知) 社会的現象についての知識・理解

(◎: 主たる観点、○: 従たる観点)

【活用観点】(思) 思考・判断力、(表) 表現力

【類型番号(選択肢番号)別出現率】 凡例: 99.9...正答 99.9...準正答

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	出題のねらい
大問8(3)	江戸時代の文化の発展に寄与した人物について、当時の政治や社会に関連する複数の資料から探究し、その内容を説明することができる。

【解答状況】人形浄瑠璃の発展に寄与した江戸時代の四代目 植村文楽軒が、天保の改革の頃に大阪を離れた理由について、当時の政治や文化の様子を説明した複数の資料を基に考察し、説明する問題である。複数の資料の内容を、人物がとった行動と関連付けて捉えることが求められている。区正答率は34.8%と3割台にとどまり、無解答率は36.8%と全設問中で最も高かった。正答のうち、記述の内容が不十分なものが30.0%見られた。

5 理科

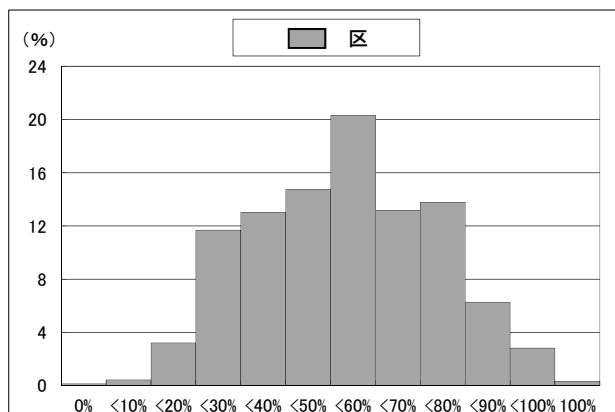
(1) 中学校理科

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	平均正答率 (%)
		区
基礎・活用	教科全体	52.9
	基礎	55.8
	活用	46.0
領域	エネルギー	45.3
	粒子	57.8
	生命	53.2
	地球	55.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	53.3
	科学的な思考・表現	51.7
	観察・実験の技能	63.2
	自然事象についての知識・理解	52.2

② 正答率度数分布 (横軸：正答率、縦軸：割合)



中学校理科は、平均正答率は52.9%で、70%以上は34問中7問であった。

領域別に見ると、「粒子」が57.8%と最も高く、「エネルギー」が45.3%と最も低かった。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

教科全体の平均正答率は52.9%で、基礎に対して活用が9.8ポイント下回っており、大きな差が見られる。領域別では、57.8%と最も高い「粒子」の平均正答率と、45.3%と最も低い「エネルギー」の平均正答率の差が12.5ポイントで、大きな差が見られる。観点別では、「観察・実験の技能」の平均正答率が63.2%で最も高かった。

設問別での区正答率が目立って低かったのは、設問12であった。設問12は「科学的な思考・表現」を主たる観点とする設問であるとともに、思考・判断力の活用を問う設問でもある。中でも、熱量を計算し、エアコンの稼働時間がどのくらい短くなるかを求める設問12(3)は、29.9%と低かった。同様に、設問12(1)は39.9%、設問12(2)は36.0%と区正答率が低かった。このことから、「エネルギー」領域における科学的な思考力、判断力、表現力に課題があることが分かる。

【授業改善の手だて】

○実験結果を比較する、結果に到達するための要因を整理する

設問12では、1Wの電力を1時間消費した白熱電球の電力量のみを算出している、22℃になるまでのエコハウスのみの時間を算出しているといった、比較すべき二つの事象の片方のみの数値を解答している誤答の出現率が高い傾向が見られた。このことから、条件が異なる二つの事象を比較する実験を行い、条件に着目しながら結果を比較し、考察する学習場面の設定が考えられる。また、見いだした実験結果に到達するための要因を考えさせたり、時間の経過に伴う実験結果の数値の変動に関係する要因を説明させたりする学習場面の設定も考えられる。

○学習内容と日常生活との関連を図る

LED電球と白熱電球の一定時間における消費電力を比較して節約される電力量を求める、熱量を計算してエアコンの稼働時間を求める、といった設問の区正答率が低かった。このことから、科学的な知識や概念が、どのように実生活に生かされているか、どのような事象と関係しているか、といったことを調べたり、考えたりする学習場面や、生徒個々の課題探究の過程に位置付けたり、発展的な学習において振り返ったりする学習場面の設定が考えられる。

○観察や実験を振り返り、説明する

「課題のある設問」としては、実験方法を考える設問を取り上げた。授業改善の手だてとして、課題を明確にして観察や実験を行うだけでなく、観察や実験を行うことにより、何か分かるのかといった見通しをもたせることが必要と考えられる。生徒に実験方法とともに実験結果の見通しをノートに記述させることや、実験を一緒に行う生徒同士で実験方法やその目的を話し合うことも有効であると考えられる。

3 設問別集計結果一覧表

設問番号	解答形式	観点				活用観点	領域	出題のねらい	類型番号(選択肢番号)別出現率								区 正答率			
		関	思	技	知				1	2	3	4	5	6	7	8		誤答率	無解答	
1	(1) 選				◎		粒子	酸化銀を加熱すると酸素ができることを理解している。	61.0	18.3	19.0	1.5					0.0	0.2	61.0	
	(2) 選				◎			酸化銀を加熱したあとに残る白色の物質の性質を理解している。	21.8	61.9	10.0	5.9						0.0	0.3	61.9
	(3) 短	○	◎					酸化銀を加熱したときの化学反応式を完成させることができる。	49.9	28.8	0.9							13.4	7.1	49.9
2	(1) 選	○		◎			粒子	酸化銅の還元の実験で、石灰水からガス管をとり出した後に火を消す理由がわかる。	4.4	86.5	6.1	2.7					0.0	0.3	86.5	
	(2) 選				◎			酸化銅の還元の実験で、酸化された物質と還元された物質を理解している。	5.8	12.3	75.8	5.7					0.0	0.4	75.8	
	(3) 選	○	◎			思		還元化学変化の例を指摘できる。	23.7	15.6	5.9	52.5					0.0	2.2	52.5	
3	(1) 短				◎		粒子	炭酸水素ナトリウムと塩酸を混ぜると、二酸化炭素が発生することを理解している。	44.8								46.1	9.1	44.8	
	(2) 述	○	◎			表		発生した気体に質量があるかどうかを調べる実験を考え、説明できる。	30.0								32.2	37.7	30.0	
4	(1) 短				◎		生命	染色液によって染まった部分が核であることを理解している。	61.0								24.6	14.4	61.0	
	(2) 短				◎			同じ細胞の集まりを、「組織」ということを理解している。	33.1	3.5							32.6	30.7	33.1	
5	(1) 選				◎		生命	胃液で起こる物質の変化について理解している。	8.5	32.3	20.8	14.8	23.1				0.0	0.6	32.3	
	(2) 選	○		◎				麦芽糖を検出する方法がわかる。	55.2	7.1	34.0	3.3					0.0	0.5	34.0	
	(3) 選				◎			モノグリセリドと脂肪酸の吸収のされ方について理解している。	29.0	32.0	17.8	20.6					0.0	0.7	29.0	
6	(1) 選	○	○	◎			生命	実験で複数回時間を記録した理由について考えることができる。	2.4	6.4	89.1	1.5					0.0	0.5	89.1	
	(2) 選				◎			刺激を受けてから反応するまでの信号の経路について理解している。	77.5	12.6	5.0	4.4					0.0	0.5	77.5	
7	(1) 選				◎		生命	無セキツイ動物について理解している。	22.9	2.3	35.8	38.5					0.0	0.5	38.5	
	(2) 述	○	◎		○	表		カモノハシの記録から、カモノハシが通常のホニュウ類とちがう点を説明できる。	67.1	7.1							16.6	9.2	74.2	
	(3) 選		○		◎			相同器官について理解している。	19.0	8.4	63.1	8.9					0.0	0.5	63.1	
8	(1) 短				◎		エネルギー	誘導電流について理解している。	36.3	2.5							34.2	27.0	36.3	
	(2) 選	○	◎					電流の向きを逆にする条件を考えることができる。	44.6								54.2	1.2	44.6	
	(3) 選	○	◎			思		コイルと検流計の針のふれ方の関係を調べるための実験の条件を考えることができる。	21.7	2.2	11.2	3.4	6.3	4.0	46.7	2.4	0.8	1.3	46.7	
9	(1) 選		◎				エネルギー	静電気のはたらきを理解し、つるしたストローの動きを考えることができる。	5.2	71.6	16.4	5.5					0.0	1.3	71.6	
	(2) 短				◎			放電について理解している。	57.3								24.5	18.2	57.3	
10	(1) 短	○		◎			地球	天気図記号を読みとり、風向と風力を指摘できる。	68.0	4.2	13.7						6.6	7.5	68.0	
	(2) 選				◎			寒冷前線の前線面と雲のようすについて理解している。	13.9	54.4	18.1	11.0					0.0	2.5	54.4	
	(3) 短	○	◎					グラフから寒冷前線が通過した時刻を推測することができる。	71.0								20.9	8.0	71.0	
11	(1) 選			◎			地球	湿度を求めることができる。	42.7	14.2	29.9	11.0					0.0	2.2	42.7	
	(2) 選	○	◎		○	思		結露の原理から結露を防止する方法を考えることができる。	7.5	7.5	39.2	44.5					0.0	1.3	44.5	
12	(1) 選		◎		○	思	エネルギー	太陽光パネルのつくりから考えられることを指摘できる。	9.7	29.6	39.9	18.8					0.0	2.0	39.9	
	(2) 選	○	◎					白熱電球をLED電球に交換することで節約できる電力量を求めることができる。	12.7	28.4	36.0	20.1					0.0	2.8	36.0	
	(3) 選	○	◎			思		熱量を計算し、エアコンの稼働時間がどのくらい短くなるかを求めることができる。	18.1	28.3	20.5	29.9					0.0	3.3	29.9	
13	(1) 選		◎	○			地球	図と表を読みとり、風向について考えることができる。	55.0	9.9	15.5	17.5					0.0	2.2	55.0	
	(2) 選	○	◎			思		複数の資料から考えられることを指摘できる。	12.1	17.1	20.1	47.7					0.0	3.0	47.7	
	(3) 述	○	◎		○	表		台風が北上したときに東寄りに移動する理由を説明できる。	58.3								15.0	26.7	58.3	

【解答形式】(選) 選択式、(短) 短答式、(述) 記述式

【観 点】(関) 自然現象への関心・意欲・態度、(思) 科学的な思考・表現、(技) 観察・実験の技能、(知) 自然現象についての知識・理解
 (◎: 主たる観点、○: 従たる観点)

【活用観点】(思) 思考・判断力、(表) 表現力

【類型番号(選択肢番号) 別出現率】 凡例: 99.9…正答 99.9…準正答

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	出題のねらい
大問3(2)	発生した気体に質量があるかどうかを調べる実験を考え、説明できる。

【解答状況】炭酸水素ナトリウムと塩酸を、ふたを閉めた容器の中で混ぜ合わせたときに発生する二酸化炭素に、質量があることを調べるためには、どのような実験を行えばよいかを考え、その方法を説明する問題である。正答するためには、対照実験の意義を理解し、二酸化炭素の有無以外の条件を同じにした実験を行い、質量を比較すればよいことに気付く必要がある。区正答率は30.0%と3割台にとどまり、無解答率は37.7%と全設問中で最も高かった。

Ⅲ 質問紙調査の結果

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果概要

設問末尾の[]内の数字は、質問紙番号

教科に関する意識

1 国語の勉強は大切だ[小 38/中 41] (%)					
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	68.6	24.6	4.7	2.0	0.0
中学校	56.6	33.2	7.3	2.6	0.1
2 国語の授業の内容はよく分かる[小 39/中 42] (%)					
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	44.3	41.3	11.5	2.8	0.0
中学校	25.4	49.9	19.7	4.8	0.1
3 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ[小 40/中 43] (%)					
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	60.4	29.7	7.5	2.3	0.0
中学校	49.3	36.6	10.2	3.6	0.2
4 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている[小 42/中 45] (%)					
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	37.4	41.2	17.2	4.2	0.0
中学校	30.7	47.7	16.9	4.5	0.1
5 算数(数学)の勉強は大切だ[小 47/中 50] (%)					
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	75.6	18.0	4.5	1.8	0.1
中学校	47.1	36.0	11.5	5.2	0.1
6 算数(数学)の授業の内容はよく分かる[小 48/中 51] (%)					
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	54.3	32.8	10.0	2.8	0.1
中学校	34.2	40.4	18.7	6.6	0.1
7 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ[小 49/中 52] (%)					
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	69.7	21.4	6.5	2.3	0.1
中学校	35.4	36.9	18.7	8.9	0.2
8 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている[小 54/中 当該設問なし] (%)					
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	49.9	36.1	10.8	3.1	0.1
中学校					

生活の状況

1 朝食を毎日食べている[小 1/中 1] (%)					
	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	89.1	7.4	2.9	0.6	0.0
中学校	83.4	9.8	5.1	1.8	0.0
2 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする[小 4/中 4] (%)					
	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	50.7	27.8	16.3	5.0	0.0
中学校	43.8	30.9	18.1	7.1	0.2

3 学校に行くのは楽しいと思う【小 12/中 12】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	53.8	31.5	9.7	4.9	0.0
中学校	41.8	38.0	13.2	6.9	0.1

4 学校のきまり(規則)を守っている【小 13/中 13】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	39.9	49.6	8.8	1.5	0.0
中学校	65.9	30.2	3.2	0.7	0.1

学習の状況

1 家で自分で計画を立てて勉強をしている【小 17/中 17】

(%)

	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	34.9	36.5	23.3	5.2	0.0
中学校	12.7	35.0	39.3	12.9	0.1

2 読書は好きだ【小 21/中 21】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	44.5	29.4	17.5	8.5	0.0
中学校	38.7	27.6	20.1	13.4	0.1

3 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている【小 30/中 33】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	41.9	42.6	12.6	2.9	0.0
中学校	24.3	49.0	21.6	4.9	0.1

4 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う【小 35/中 37】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	30.9	46.3	18.6	3.8	0.4
中学校	24.2	48.9	21.3	5.4	0.2

自分自身についての意識

1 自分には、よいところがあると思う【小 5/中 5】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	39.4	42.5	13.5	4.7	0.0
中学校	30.3	44.5	17.4	7.7	0.1

2 将来の夢や目標を持っている【小 8/中 8】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	64.6	18.8	9.5	7.1	0.0
中学校	42.0	24.9	18.9	14.1	0.1

3 人の役に立つ人間になりたいと思う【小 16/中 16】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	73.6	21.7	3.4	1.3	0.0
中学校	66.8	26.8	4.0	2.2	0.3

4 今住んでいる地域の行事に参加している【小 23/中 23】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	18.5	32.4	28.6	20.5	0.0
中学校	10.5	26.3	29.3	33.7	0.2

1 教科に関する意識

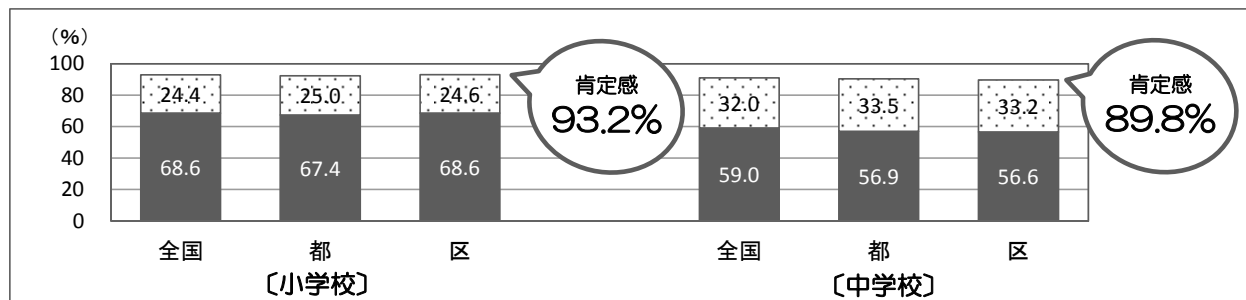
※肯定的な回答(例: 当てはまる+どちらかといえば、当てはまる)をした児童・生徒の割合を示す。設問末尾の[]内の数字は、質問紙番号。

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる

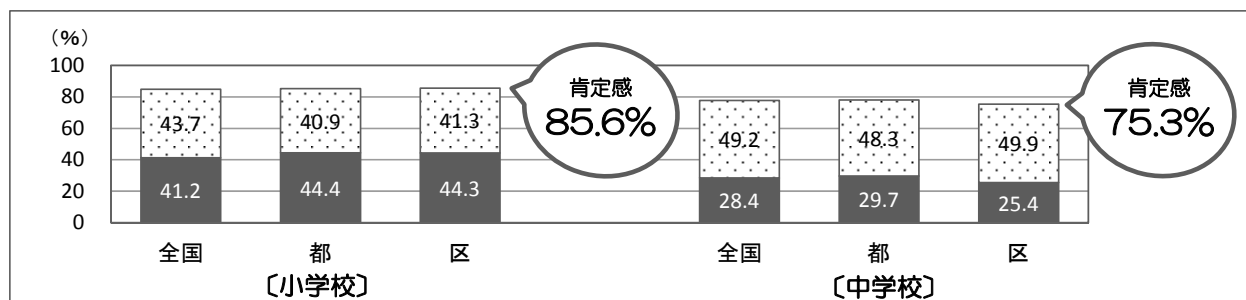
国語に対する意識

- 「国語の授業の内容はよく分かる」の質問における肯定感は、中学校で7割台にとどまっている。また、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」の質問における肯定感は、小・中学校ともに7割台にとどまっている。教師が一方的に知識を伝達するのではなく、児童・生徒が中心となって授業が展開される主体的・対話的な学習活動の中で、児童・生徒が自ら知識を獲得できるようにするための授業改善が必要である。

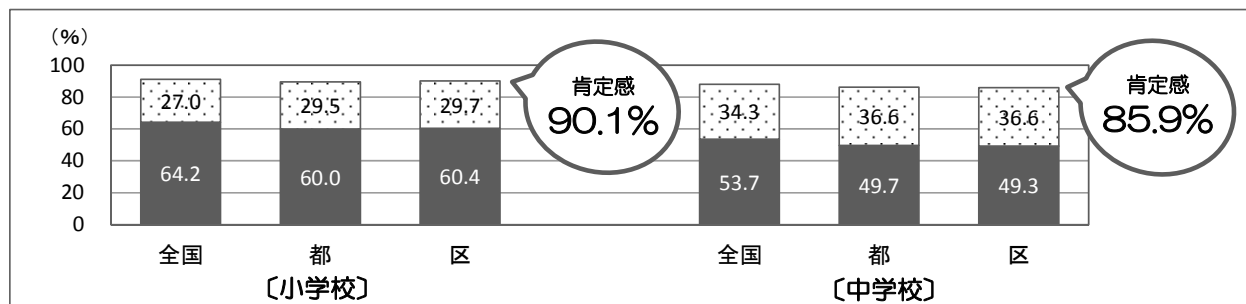
1 国語の勉強は大切だ [小 38/中 41]



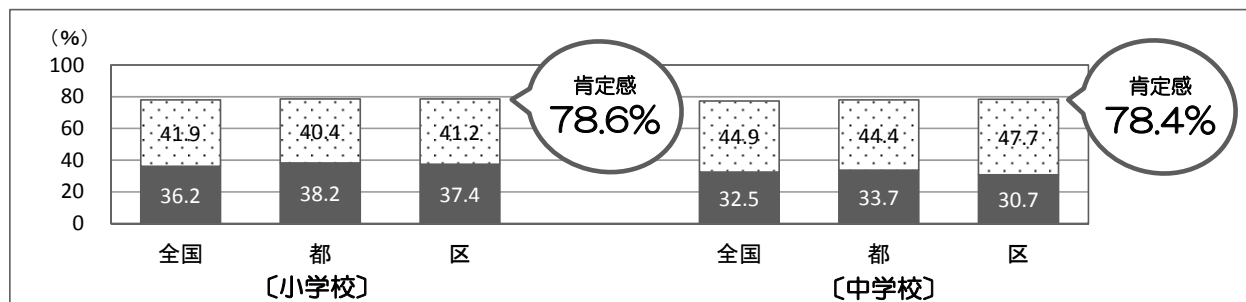
2 国語の授業の内容はよく分かる [小 39/中 42]



3 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ [小 40/中 43]



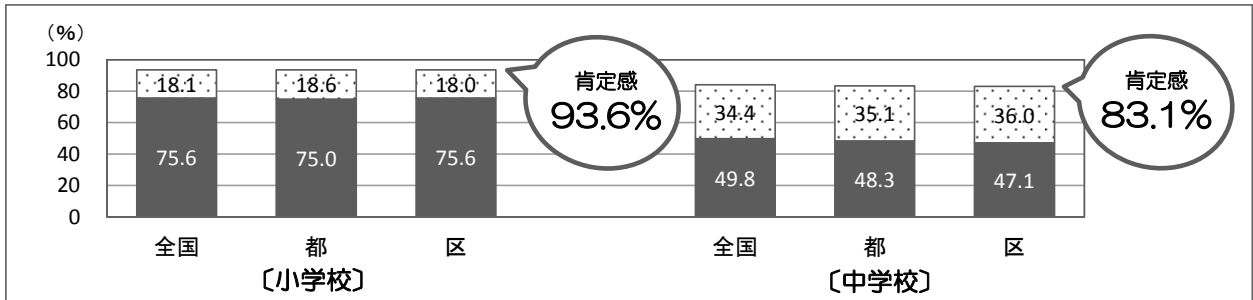
4 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている [小 42/中 45]



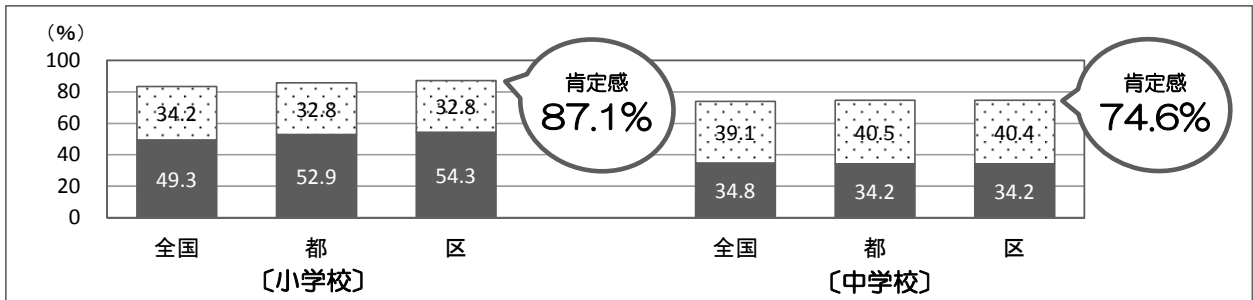
算数・数学に対する意識

- 「算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の質問における肯定感は、小・中学校ともに全国平均よりも低く、中学校では72.3%となっている。昨年度は68.0%であったため、4.3ポイントの増加ではあるものの、依然として課題である。今後も引き続き、日常生活と深く関連付けた学習活動を設定していくことが求められる。

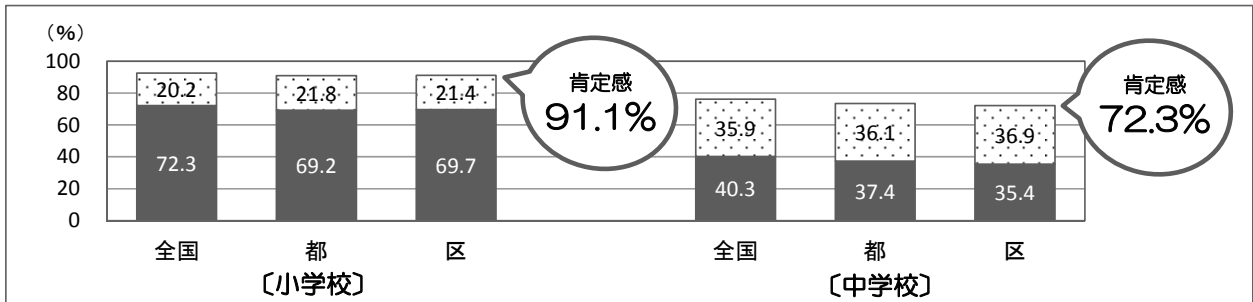
5 算数(数学)の勉強は大切だ [小 47/中 50]



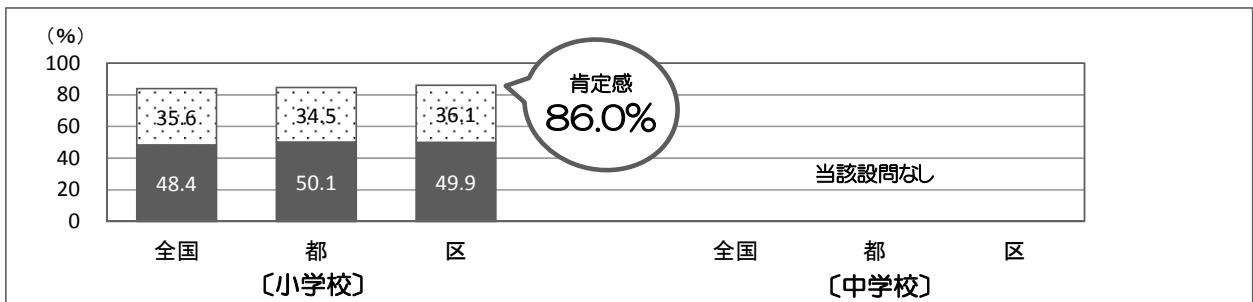
6 算数(数学)の授業の内容はよく分かる [小 48/中 51]



7 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ [小 49/中 52]



8 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている [小 54/中 当該設問なし]



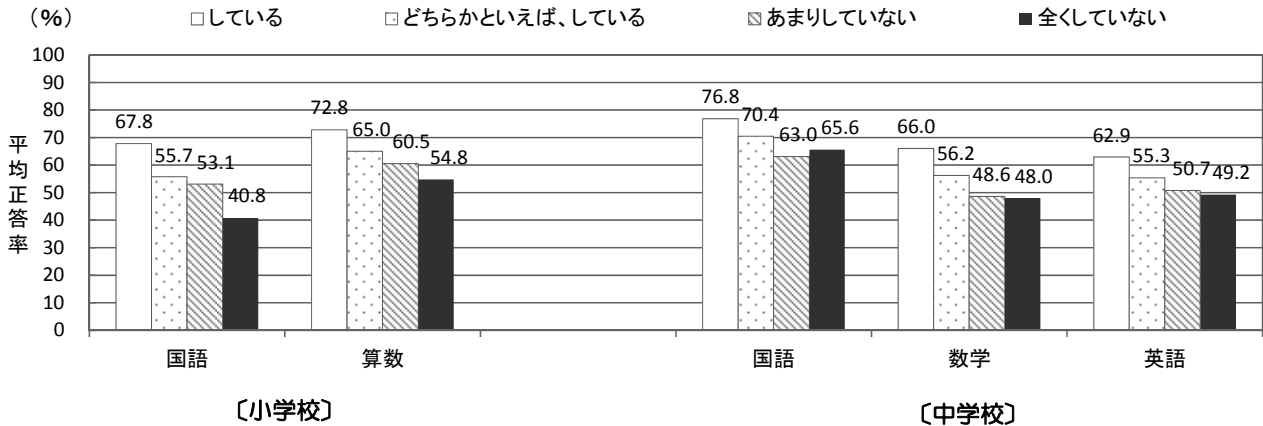
2 生活の状況

1 朝食を毎日食べている【小 1/中 1】

(%)

	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	89.1(87.3)	7.4(8.3)	2.9(3.3)	0.6(1.0)	0.0(0.0)
中学校	83.4(80.5)	9.8(11.7)	5.1(5.2)	1.8(2.6)	0.0(0.0)

※()内の数字は、平成30年度の結果

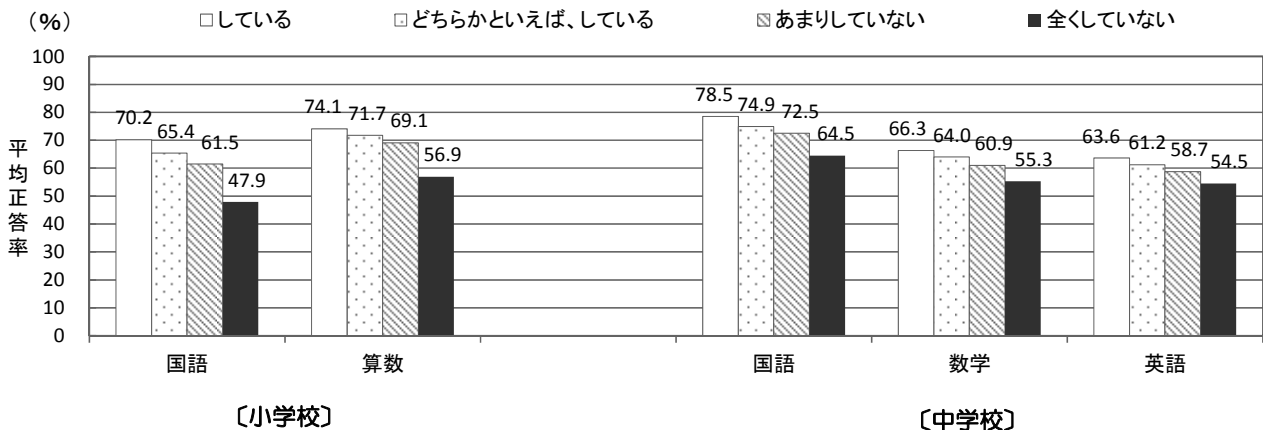


2 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする【小 4/中 4】

(%)

	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	50.7(54.0)	27.8(28.5)	16.3(13.6)	5.0(3.8)	0.0(0.0)
中学校	43.8(44.4)	30.9(29.5)	18.1(18.8)	7.1(6.6)	0.2(0.7)

※()内の数字は、平成30年度の結果



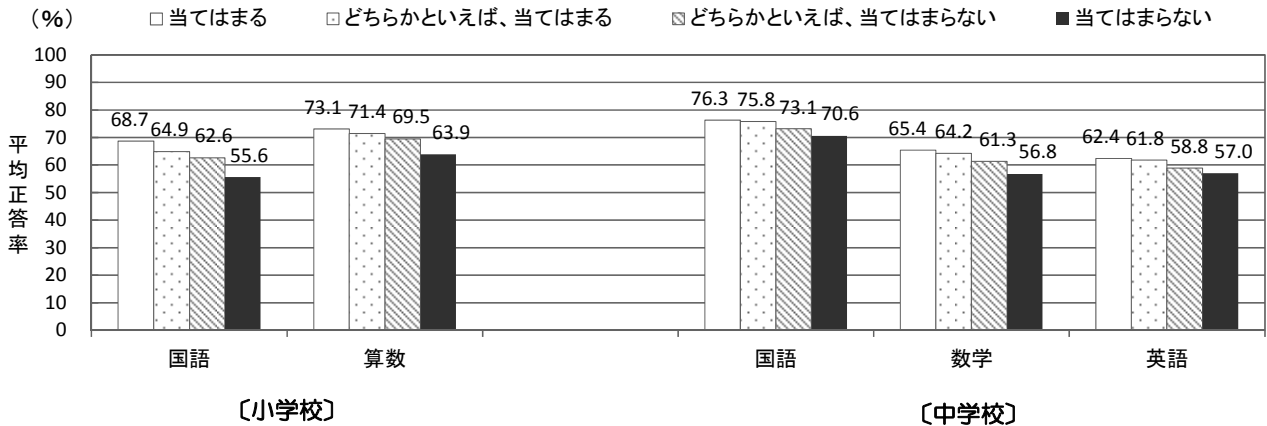
- 「朝食を毎日食べている」の設問について、「している」と回答した割合は、昨年度に比べ、小学校で1.8ポイント、中学校で2.9ポイント増加した。小・中学校ともに、「どちらかといえば、している」の値が微減しているものの、全体的に、朝食を食べる児童・生徒は増加傾向を示している。朝食摂取と学力には関連が見られることから、今後も家庭科における指導や生活指導等を通して、家庭で朝食をきちんととらせるよう促していくことが大切である。
- 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする」の設問について、「している」と回答した割合は、昨年度に比べ、小学校で3.3ポイント、中学校で0.6ポイント減少した。また、「全くしていない」と回答した割合は、小学校で1.2ポイント、中学校で0.5ポイント増加した。家の人との会話は学力との間に相関関係が見られる。特に小学校段階では、「している」と「全くしていない」で平均正答率に20ポイント前後の差があることから、今後も家庭学習における関わりなどを通して、家の人との会話を促していくことが大切である。

3 学校に行くのは楽しいと思う[小 12/中 12]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	53.8	31.5	9.7	4.9	0.0
中学校	41.8	38.0	13.2	6.9	0.1

※平成 30 年度は当該設問なし

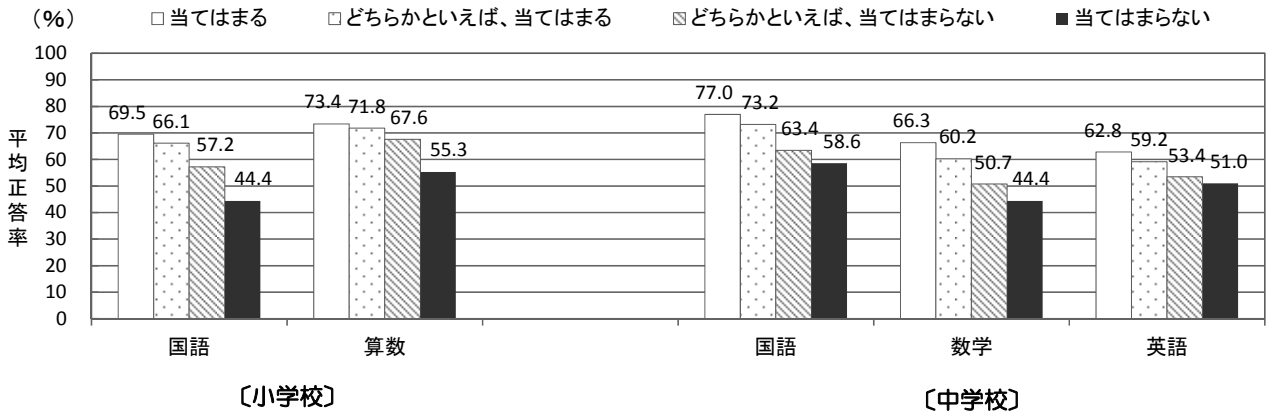


4 学校のきまり(規則)を守っている[小 13/中 13]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	39.9 (37.9)	49.6 (49.4)	8.8 (10.6)	1.5 (2.0)	0.0 (0.0)
中学校	65.9 (60.3)	30.2 (34.5)	3.2 (4.1)	0.7 (0.9)	0.1 (0.1)

※()内の数字は、平成 30 年度の結果



- 「学校に行くのは楽しいと思う」の設問について、肯定的な回答をした児童・生徒の平均正答率は、肯定的でない回答をした児童・生徒の平均正答率より高くなっている。児童・生徒にとって楽しい学校生活を送ることが、学習意欲や学力の向上につながっていると考えられる。そのため、授業改善に加えて、児童・生徒の学校生活を充実させる手だてを考えていくことも重要な視点である。
- 「学校のきまり(規則)を守っている」の設問について、「当てはまる」と回答した割合は、昨年度に比べ、小学校で2.0ポイント、中学校で5.6ポイント増加した。肯定的な回答をした児童・生徒の平均正答率は、肯定的でない回答をした児童・生徒の平均正答率より高くなっている。特に、「当てはまる」と回答した児童・生徒と「当てはまらない」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語で25.1ポイント、中学校数学で21.9ポイントと大きな差が見られる。児童・生徒一人一人が基本的な生活習慣や学習習慣を確立できるよう指導していくことが重要である。

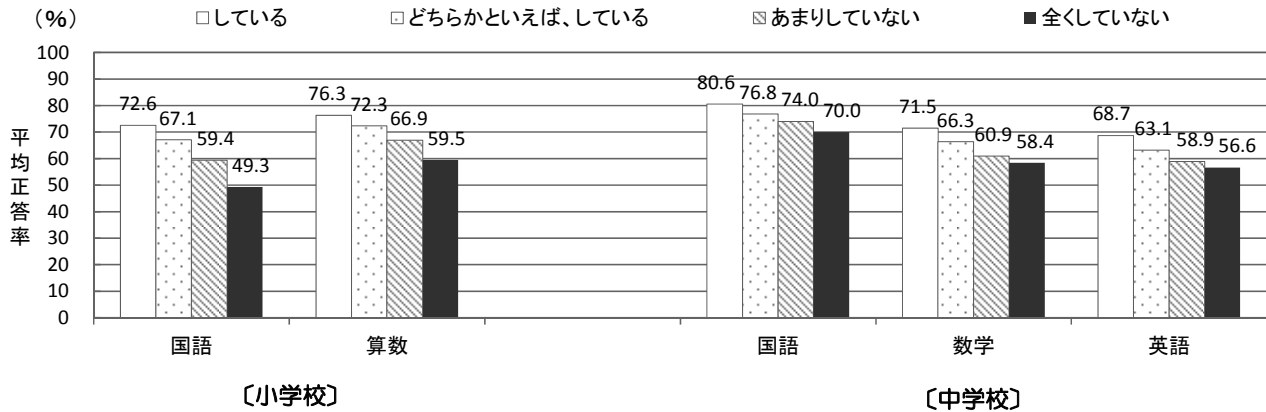
3 学習の状況

1 家で自分で計画を立てて勉強をしている[小 17/中 17]

(%)

	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	34.9(29.7)	36.5(36.4)	23.3(26.4)	5.2(7.5)	0.0(0.0)
中学校	12.7(14.7)	35.0(34.7)	39.3(36.2)	12.9(14.4)	0.1(0.0)

※()内の数字は、平成30年度の結果

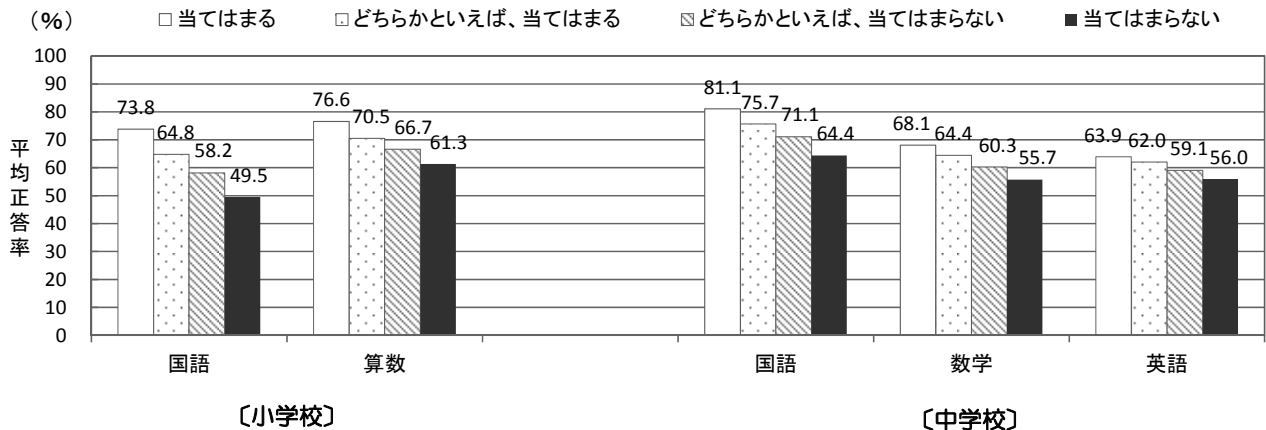


2 読書は好きだ[小 21/中 21]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	44.5	29.4	17.5	8.5	0.0
中学校	38.7	27.6	20.1	13.4	0.1

※平成30年度は当該設問なし



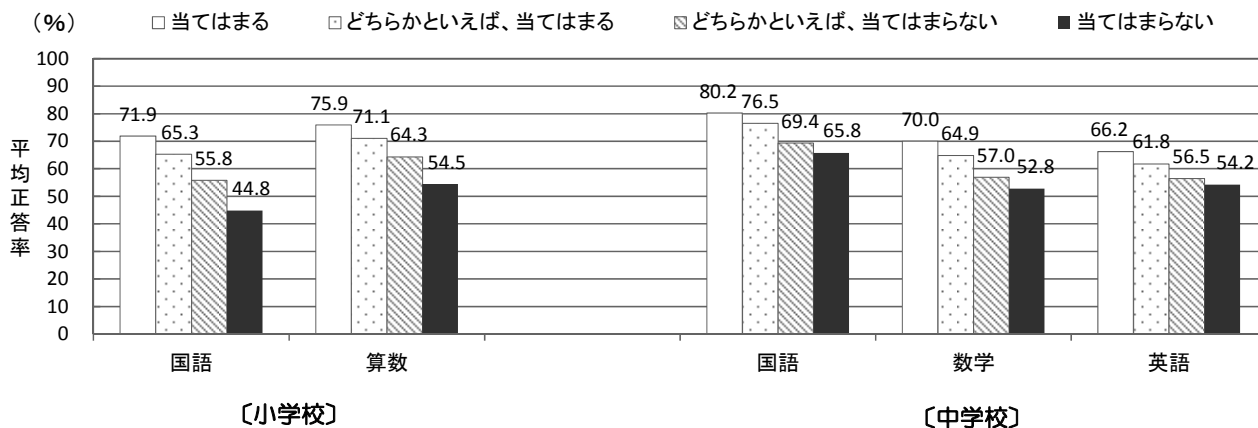
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の設問における肯定的な回答の割合は、昨年度に比べ、小学校では5.3ポイント増加している。中学校では昨年度よりも1.7ポイント減少し、5割に満たなかった。また、平均正答率とのクロス集計結果では、計画を立てて勉強をしている児童・生徒の平均正答率が最も高く、計画を全く立てずに勉強をしている児童・生徒の平均正答率が最も低いことが分かった。保護者・地域等と連携し、学校や家庭において、計画的に学習する習慣を身に付けさせていくことが大切である。
- 「読書は好きだ」の設問では、小学校国語および算数、中学校国語において、「当てはまる」と回答した児童・生徒と「当てはまらない」と回答した児童・生徒の平均正答率では15ポイント以上の差があり、大きな乖離が見られる。児童・生徒の読書好きの傾向と学力との間に相関関係が見られるため、児童・生徒に読書習慣を身に付けさせることが大切である。

3 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている [小 30/中 33]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	41.9	42.6	12.6	2.9	0.0
中学校	24.3	49.0	21.6	4.9	0.1

※平成 30 年度は当該設問なし

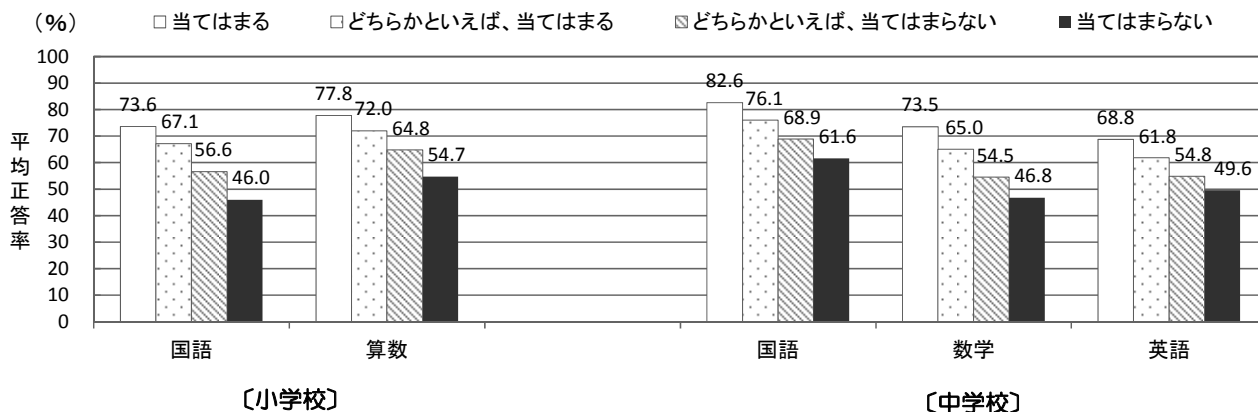


4 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う [小 35/中 37]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	30.9 (28.0)	46.3 (47.5)	18.6 (20.2)	3.8 (4.3)	0.4 (0.1)
中学校	24.2 (22.9)	48.9 (50.2)	21.3 (20.7)	5.4 (6.2)	0.2 (0.1)

※()内の数字は、平成 30 年度の結果



- 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」の設問について、「当てはまる」と「当てはまらない」で平均正答率を比較すると、12 ポイント以上の差があり、大きな乖離が見られる。また、各教科いづれも学力との間に相関関係が見られる。学校におけるカリキュラム・マネジメントを推進していくことで教科等横断的な学習の充実を図り、児童・生徒の資質・能力を育成していくことが大切である。
- 「5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の設問について、「当てはまる」と回答した割合は、昨年度に比べ、小学校で2.9 ポイント、中学校で1.3 ポイント増加している。また、「当てはまる」と「当てはまらない」で平均正答率を比較すると、小学校では国語で27.6 ポイント、算数で23.1 ポイント、中学校では国語で21.0 ポイント、数学で26.7 ポイント、英語で19.2 ポイントであった。また、各教科いづれも学力との間に相関関係が見られる。「主体的な学び」の視点での授業改善を図ることで、児童・生徒の意欲を高めるとともに、学力向上につながっていくと考えられる。

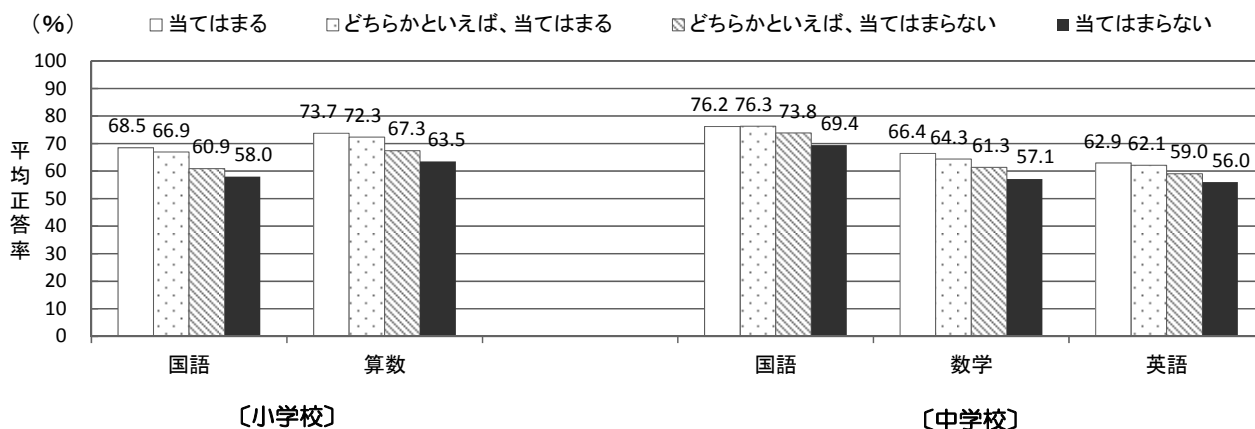
4 自分自身についての意識

1 自分には、よいところがあると思う[小 5/中 5]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	39.4(40.4)	42.5(43.8)	13.5(11.7)	4.7(4.0)	0.0(0.1)
中学校	30.3(32.8)	44.5(44.3)	17.4(16.1)	7.7(6.7)	0.1(0.0)

※()内の数字は、平成30年度の結果

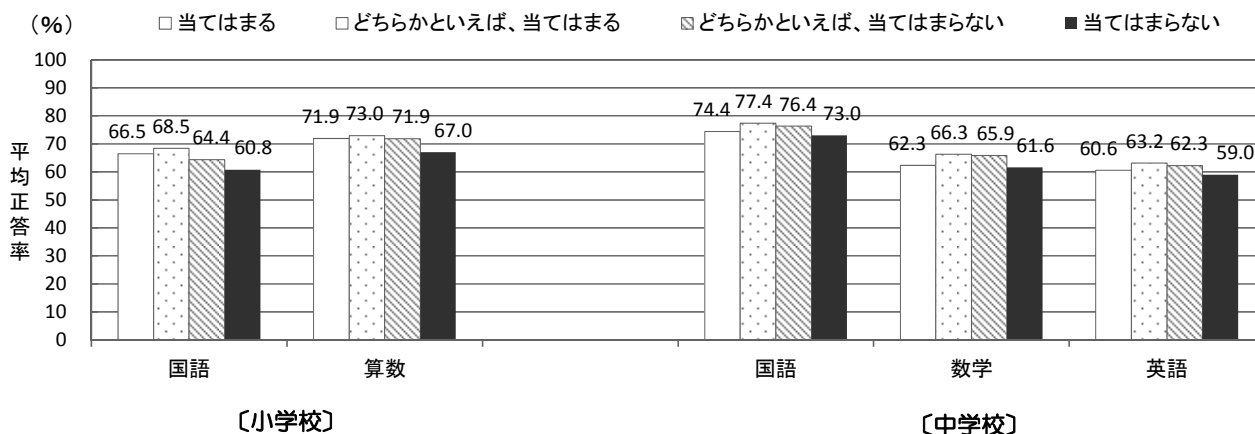


2 将来の夢や目標を持っている[小 8/中 8]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	64.6(66.3)	18.8(18.3)	9.5(9.3)	7.1(6.1)	0.0(0.0)
中学校	42.0(43.7)	24.9(27.5)	18.9(17.8)	14.1(10.8)	0.1(0.1)

※()内の数字は、平成30年度の結果



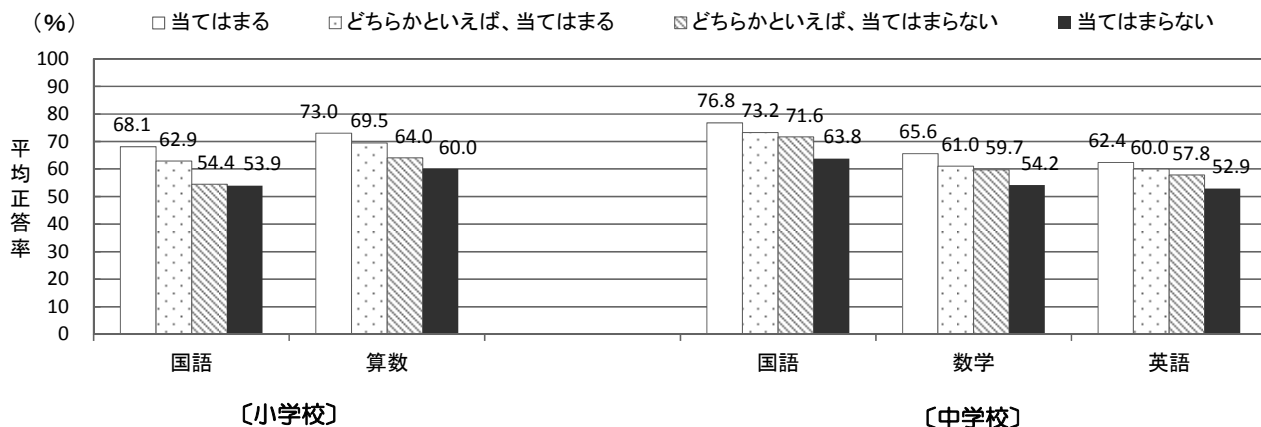
- 「自分には、よいところがあると思う」という設問に対し、小・中学校ともに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率が高い傾向にあった。小・中学校ともにクロス集計の棒グラフは右下がりの形になっているが、小学校の方が自己肯定感と学力の相関関係がやや強く出ていると言える。
- 「将来の夢や目標を持っている」という設問に対し、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小学校では83.4%、中学校では66.9%であった。「当てはまる」と回答した割合を小・中学校で比較すると、中学校は小学校よりも20ポイント以上低い値であった。クロス集計の棒グラフを見ると、小・中学校ともに「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率が最も高く、緩やかな山を描く形になっており、学力との明確な相関関係は見られなかった。

3 人の役に立つ人間になりたいと思う[小 16/中 16]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	73.6(73.0)	21.7(22.2)	3.4(3.1)	1.3(1.5)	0.0(0.1)
中学校	66.8(66.7)	26.8(26.6)	4.0(4.5)	2.2(2.1)	0.3(0.2)

※()内の数字は、平成30年度の結果

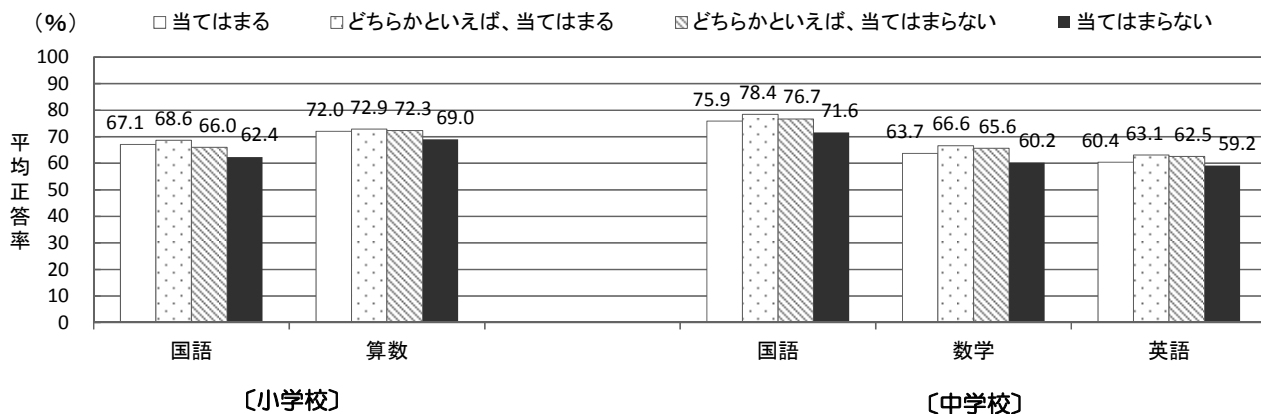


4 今住んでいる地域の行事に参加している[小 23/中 23]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	18.5(16.6)	32.4(27.2)	28.6(30.0)	20.5(26.1)	0.0(0.1)
中学校	10.5(11.5)	26.3(23.8)	29.3(30.8)	33.7(33.7)	0.2(0.1)

※()内の数字は、平成30年度の結果



- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」という設問に対し、90%を超える児童・生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした。特に小学校で、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童ほど平均正答率が高い傾向が見られた。昨年度の結果と比較すると、肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに昨年度と同程度であった。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」という設問に対し、肯定的な回答をした児童は50.9%、生徒は36.8%であった。昨年度の結果と比較すると、肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに昨年度を上回った。
- 児童・生徒が地域に関わりをもち、人の役に立つことや地域に貢献することのよさを実感できる体験活動を増やしていくことが今後の課題と考えられる。